

第二條 北海道府縣又ハ市ハ土地ノ情况ニ依リ必要アル場合ニ限り専門學校ヲ設置スルコトヲ得但シ沖繩縣ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 私人ハ専門學校ヲ設置スルコトヲ得

第四條 公立又ハ私立ノ専門學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 専門學校ノ入學資格ハ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スルモノト檢定セラレタル者以上ノ程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ美術音樂ニ關スル學術技藝ヲ教授スル専門學校ニ就テハ文部大臣ハ別ニ其ノ入學資格ヲ定ムルコトヲ得

第六條 専門學校ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 専門學校ニ於テハ豫科研究科及別科ヲ置クコトヲ得

第八條 官立専門學校ノ修業年限學科學科目及其ノ程度並豫科研究科及別科ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム
公立又ハ私立ノ専門學校ノ修業年限學科學科目及其ノ程度並豫科研究科及別

科ニ關スル規程ハ公立學校ニ在リテハ管理者私立學校ニ在リテハ設立者文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム

第九條 公立又ハ私立ノ専門學校ノ教員ノ資格ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十條 公立専門學校ノ職員ノ旅費及給與ニ關スル規程ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第十一條 公立ノ専門學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ

但シ特別ノ場合ニハ之ヲ減免シ又ハ徵收セサルコトヲ得

第十二條 第一條ニ該當セサル學校ハ専門學校ト稱スルコトヲ得ス

附則

第十三條 本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條 明治二十年勅令第四十八號ハ之ヲ廢止ス

第十五條 既設ノ公立又ハ私立ノ學校ニシテ本令ニ依ルヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ第四條ニ準シ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ手續ヲ爲サ、ルモノハ前項ノ期間ノ満了ト共ニ廢校シタルモノト看做ス

第一項ノ手續ヲ爲スモ不認可ノ命令ヲ受ケタルモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ニ於テ廢校シタルモノト看做ス

第十六條 千葉醫學專門學校、仙臺醫學專門學校、岡山醫學專門學校、金澤醫學專門學校、長崎醫學專門學校、東京外國語學校、東京美術學校及東京音樂學校ハ本令施行ノ日ヨリ專門學校トス

專門學校入學者檢定規程

明治三十六年三月三十一日
文部省令第一四號

第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス

第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス

一 年齢男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト

二 身體健全ナルコト

三 品行方正ナルコト

四 現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セサルコト

第三條 檢定ヲ分テ試驗檢定、無試驗檢定ノ二トシ試驗檢定ハ官立公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試驗檢定ハ當該

專門學校ニ於テ生校入學ノ際之ヲ行フ

第四條 試驗檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セザルコトヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試驗檢定ニ合格シタル者ニハ試驗檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試驗檢定ノ問題答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試驗檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試驗檢定ヲ受クルコトヲ得

專門學校入學者檢定規程

- 一 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者
- 二 明治三十五年文部省告示第八十二號ニ依リ高等學校入學ノ豫備試驗ニ合格シタル者

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

文部省直轄學校外國人特別入學規程

明治三十四年十一月十一日 文部省令第一五號

- 第一條 外國人ニシテ文部省直轄學校ニ於テ一般學則ノ規程ニ依ラス所定ノ學科ノ一科若ハ數科ノ教授ヲ受ケントスル者ハ外務省在外公館又ハ本邦所在ノ外國公館ノ紹介アルモノニ限リ特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ
- 第二條 前條ニ依リ教授ヲ受ケントスル外國人ハ前條ノ紹介書ヲ添ヘ帝國大學總長若ハ學校長ニ願出ツヘシ
- 第三條 帝國大學總長若ハ學校長ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ相當ノ學力アリト認メタル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ但シ學校ノ設備上差支アル場合ハ

此ノ限ニアラス

第四條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニシテ學科修了ノ證明書ヲ受ケントスル者ニハ試驗ノ上之ヲ附與スヘシ

第五條 本令ノ規定ニ依リ入學シタル外國人ニハ入學試驗料入學料及授業料ヲ徵收セサルコトヲ得

第六條 帝國大學總長及學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令ニ關シ必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

附 則

第七條 本令施行ノ際文部省直轄諸學校ニ於テ一般學則ノ規定ニ依ラス在學スル外國人ハ本令ニ依リ入學シタル者ト看做ス

第八條 明治三十三年文部省令第十一號文部省直轄諸學校外國委託生ニ關スル規定ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

東京外國語學校修業年限學科科目及其程度並研究生選科生

及專修科ニ關スル規程

明治三十七年五月三十一日 文部省令第一三三號
 同四十四年三月一日 省令第一〇四號
 同四十四年五月一日 省令第一四〇號
 同四十四年一月 省令第三號改正

第一條 東京外國語學校ノ修業年限ハ三箇年トス

第二條 學科ハ分テ英語學科、佛語學科、獨語學科、露語學科、伊語學科、西語學科、清語學科、蒙古語學科、暹羅語學科、馬來語學科、ヒンドスタニー語學科及タミル語學科トス

前項ノ外朝鮮語學科ヲ置ク

第三條 各學科ノ學科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

學科及學年	英(佛、獨、露、伊、西)語學科			清(蒙古、暹羅、馬來、ヒンドスタニー、タミル)語學科及朝鮮語學科		
	第一學年	第二學年	第三學年	第一學年	第二學年	第三學年
正科 語學	一一二	一一二	一一二	一八	一八	一八
修身	一	一	一	一	一	一

學科	英(佛、獨、露、伊、西)語學科		清(蒙古、暹羅、馬來、ヒンドスタニー、タミル)語學科及朝鮮語學科	
	第一學年	第二學年	第一學年	第二學年
國語 漢文	二	二	二	二
英語			四	四
清語			六	六
蘭語			六	六
地理 歷史			二	二
言語 學	一	二	一	二
法學 通論	二		二	
經濟 學		三		三
國際 法			三	
教育 學			三	
體操	三	三	三	三
計	二〇九	三〇	二〇九	三〇

備考 表中×又ハ*ヲ附スル同一學年内ノ學科目ハ生徒ノ選擇ニ依リ其

東京外國語學校修業年限學科科目及其程度並研究生選科生及專修科ニ關スル規程

ノ一ヲ課ス

第二學年及第三學年ニ於テハ正科語學ノ教授時間内ニ於テ當該國ノ歴史地理及文學ノ大要ヲモ教授スヘキモノトス

學校長ハ臨時必要ト認メタル場合ニ於テハ第一項ノ每週教授時數ヲ増減シ若クハ科外講義ヲ開クコトヲ得

第四條 卒業者ニシテ既修ノ學科ニ就キ更ニ研究セントスル者ハ研究生トシテ二箇年以内ニ在學セシムルコトヲ得

第五條 各學科ノ學科目中一科目若ハ數科目ヲ選擇シテ學修セントスル者ハ選科生トシテ入學セシムルコトヲ得

第六條 簡易ノ方法ニ依リ外國語ヲ專修セントスル者ノ爲ニ專修科ヲ置ク
專修科ノ修業年限ハ二箇年トス

專修科ニ於テ教授スヘキ外國語ノ種類每週教授時數ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ學校長之ヲ定ムヘシ

附則

本令ハ明治三十七年九月十一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ學校長ハ文部大臣ノ認可ヲ得テ從前ノ規定ヲ斟酌スルコトヲ得

東京外國語學校商議委員會規程 明治三十九年六月十一日令達

第一條 文部省直轄諸學校官制第十九條ニ依リ東京外國語學校ニ商議委員會ヲ置ク

第二條 商議委員ノ員數ハ十二名以内トス

第三條 商議委員會ハ學科課程及重要ノ諸規則其他學校長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ審議ス

第四條 商議委員會ハ文部大臣ノ諮問ニ應シテ意見ヲ陳述スヘシ

第五條 商議委員會ハ學校長之ヲ開ク

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得

第七條 商議委員會ノ決議ハ學校長ヨリ之ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

(明治四十四年六月十五日調)

職員

文學士 村上直次郎

大分縣士族

校長

教授

淺田 榮次

東京府士族

山口 小太郎

東京府士族

水野 繁太郎

岡山縣士族

福岡 秀猪

東京府華族

マスター、オブ、ロース(エール大學)
ドクトール、オブ、シヤンズ、ボリチーク、エ、アドミニス
トラチーフ(アルクセル大學)

文學博士 文學士 金澤庄三郎

北海道士族

文學士 村上直次郎

大分縣士族

村井 知至

愛媛縣士族

鈴木 於菟平

東京府平民

伊東 平藏

東京府士族

篠田 賢易

東京府士族

英語

獨語

獨語

國際法

朝鮮語

蘭語

英語

露語

伊語

西語

露語、言語學

文學士 八杉 貞利

東京府士族

佛語

重野 紹一郎

鹿兒島縣士族

朝鮮語

本田 存

東京府士族

清語

岡本 正文

愛媛縣士族

國語漢文

文學士 岡田 正美

東京府士族

國語漢文

文學士 手塚 光貴

鹿兒島縣士族

英語

片山 寛

長野縣士族

佛語

瀧村 立太郎

東京府士族

獨語

文學士 大津 康

山梨縣平民

獨語

田代 光雄

東京府士族

體操

助教授

土田 半六

東京府平民

伊語

粟田 三吾

東京府士族

露語

北島 常晴

東京府士族

教務課主任兼務

職員

十九

十八

清 語
伊 語

宮越健太郎
吉田彌邦

新潟縣平民
徳島縣平民

外國教師 (就職順)

佛 語
英 語
西 語
蒙 古 語
ヒンドスタニー語
露 語
馬來 語
伊 語
獨 語
清 語

Paul Jacquot
オースチン、ウィリアム、メドレー
Amelia William Medley
リモンシャード、エン、フィロソフイヤ、
ゴンザロ、ヒメネス、テ、ラ、エスピダ
Gonzalo Jimenez de la Espida
羅卜藏全丹
ムハムマッド、バラカツルラー
Muhammad Barkatullah
ドシヤン、ニコラエウイチ、トドロウイチ
Dushan Nikolavitch Tokorovitch
イブラヒム、ビン、アハメッド
Ibrahim bin Ahmad
チモ、クストレルリ
Timo Pastorelli
エルウイン、ワルテル
Erwin Walter
文生員文 楨

佛 國 人
英 國 人
西 國 人
蒙 古 人
印 度 人
露 國 人
馬 來 人
伊 國 人
獨 國 人
清 國 人

講 師 (就職順)

英 語
教 育 學
經 濟 學
佛 語
朝 鮮 語
清 語
西 語
體 操
蒙 古 語
朝 鮮 語
露 語
法 學 通 論

ウイリアム、ジョージ、スミス
William George Smith
文學士村上辰午郎
東京帝國大學法科大學教授法學博士高野岩三郎
第一高等學校教授杉田義雄
山本恆太郎
文生員宮錦舒
平松輝太郎
笠喜三郎
東京帝國大學文科大學教授文學士藤岡勝二
柳 菘 根
陸軍教授河津敬次郎
東京帝國大學法科大學教授法學博士山田三良

英 國 人
石川藤士族
東京府平民
東京府平民
東京府士族
清 國 人
三重縣士族
福岡縣士族
東京府平民
朝 鮮 人
長崎縣平民
東京府平民

西語	永田寬定	東京府士族
西語	沼田豐吉	富山縣平民
英語	東京高等師範學校教授上條辰藏	長野縣平民
修身	文學士藤井健治郎	山形縣平民
佛語	アグレゼー、テ、レットル(パリ大學) ショセフ、コット Joseph Cotte	佛國人
商業通論簿記原理	商學士安藤兼三郎	東京府平民
英語	ドクトル、オプ、フイロソフイー(シカゴ大學) 吉岡源一郎	東京府士族
佛語	井上源次郎	群馬縣平民
朝鮮語	延 浚	朝鮮人
英語	マスター、オプ、リテラチユアー(カリフォルニア大學) ショ、イングラム、ブライヤン John Ingram Bryan	米國人
衛生監督	菅能近一	愛媛縣平民
柔道教師	高橋數良	香川縣平民
擊劍教師	今泉來藏	佐賀縣士族

囑託

庶務課主任	文學士松本義顯	和歌山縣平民
會計課主任	吉村賴信	東京府士族
會計課勤務	平野銓三	東京府士族
圖書掛勤務	稻葉宇作	新潟縣平民
庶務課勤務	菅谷兼次郎	石川縣士族
雇員		
教務課勤務	三澤・辰成	宮城縣士族
教務課勤務	山田 曠	東京府平民
教務課勤務	屋代七吉	埼玉縣平民
會計課勤務	竹田顯義	長崎縣士族
教務課勤務	望月富貴男	東京府士族
圖書掛勤務	田口勇次	東京府平民

書記

東京外國語學校規則

(明治四十四年三月改正)

第一章 總 則

第一條 本校ハ外國語ニ熟達シ實務ニ適スヘキ者ヲ養成スル目的ヲ以テ歐洲及東洋ノ近世語ヲ教授スル所トス

第二條 學科ハ分チテ英語學科。佛語學科。獨語學科。露語學科。伊語學科。西語學科。清語學科。蒙古語學科。暹羅語學科。馬來語學科。ヒンドヌタニ語學科及タミル語學科トス

前項ノ外朝鮮語學科ヲ置ク

第三條 修業年限ハ三箇年トス

第四條 本校ニ專修科ヲ置ク其規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 學科課程

第五條 各語學科ノ學科目及其程度左ノ如シ

本 科

英語學科										佛語學科											
科目	第一學年			第二學年			第三學年			計	科目	第一學年			第二學年			第三學年			計
	修身	英語	國語漢文	言語學	法學通論	經濟學	國際法	教育學	體操			佛語	國語漢文	言語學	法學通論	經濟學	國際法	教育學	體操		
修身	一	二	二	一	一	一	一	一	三	三〇九	修身	一	二	二	一	一	一	一	三	三〇九	
英語	二	二	二	二	二	二	二	二	六	三〇九	佛語	二	二	二	二	二	二	二	六	三〇九	
國語漢文	二	二	二	二	二	二	二	二	六	三〇九	國語漢文	二	二	二	二	二	二	二	六	三〇九	
言語學	×	×	×	×	×	×	×	×	×	三〇九	言語學	×	×	×	×	×	×	×	×	三〇九	
法學通論	×	×	×	×	×	×	×	×	×	三〇九	法學通論	×	×	×	×	×	×	×	×	三〇九	
經濟學										三〇九	經濟學									三〇九	
國際法										三〇九	國際法									三〇九	
教育學										三〇九	教育學									三〇九	
體操										三〇九	體操									三〇九	
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三〇九	計	三	三	三	三	三	三	三	三	三〇九	

東京外國語學校規則

清語學科

科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
清語	一八	一八	一八
國語漢文	二	二	二
英語	四	四	四
言語學	×一	×二	
法學通論	×二		
經濟學		×三	
國際法			×三
教育學			×三
體操	三	三	三
計	三〇九	三三〇	三一

蒙古語學科

科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
蒙古語	六	一四	一四
國語漢文	二	二	二
清語	一六	六	六
地理歷史		二	二
言語學	×一	×二	
法學通論	×二		
經濟學		×三	
國際法			×三
教育學			×三
體操	三	三	三
計	三〇九	三三〇	三一

暹羅語學科

科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
暹羅語	六	一四	一四
國語漢文	二	二	二
英語	一六	六	六
地理歷史		二	二
言語學	×一	×二	
法學通論	×二		
經濟學		×三	
國際法			×三
教育學			×三
體操	三	三	三
計	三〇九	三三〇	三一

馬來語學科

科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
馬來語	六	一四	一四
國語漢文	二	二	二
英語	一六	*六	*六
蘭語		*六	*六
地理歷史		二	二
言語學	×一	×二	
法學通論	×二		
經濟學		×三	
國際法			×三
教育學			×三
體操	三	三	三
計	三〇九	三三〇	三一

ヒンドスターニ語學科													
科目	第一學年		第二學年		第三學年		科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	身	年	身	年	身	年		身	年	身	年	身	年
ヒンドスターニ語	六	一	一四	一	一四	一	タミル語	六	一	一四	一	一四	一
國語漢文	二		二		二		國語漢文	二		二		二	
英語	一六		六		六		英語	一六		六		六	
地理歴史			二		二		地理歴史			二		二	
言語學	×一		×二		×二		言語學	×一		×二		×二	
法學通論							法學通論	×二					
經濟學					×三		經濟學			×三			
國際法							國際法					×三	
教育學							教育學					×三	
體操	三		三		三		體操	三		三		三	
計	三〇九		三三〇		三一		計	三〇九		三三〇		三一	

朝鮮語學科											
科目	第一學年		第二學年		第三學年		科目	第一學年		第二學年	
	身	年	身	年	身	年		身	年	身	年
朝鮮語	一八	一	一八	一	一八	一	言語學	×六		×六	
國語漢文	二		二		二		國語漢文	×六		×六	
英語	四		四		四		英語	×六		×六	
言語學	×一		×二				言語學				
法學通論							法學通論				
經濟學							經濟學				
國際法							國際法				
教育學							教育學				
體操	三		三		三		體操				
計	三〇九		三三〇		三一		計	一六		一六	

備考

- 一、表中×又ハ※ヲ附スル同一學年内ノ學科目ハ生徒ノ選擇ニ依リ其一ヲ課ス
- 二、各語學科第二學年若ハ第三學年ノ語學時間内ニ於テ當該各國ノ歴史地理及文學ノ大要ヲ教授スヘキモノトス
- 三、必要ト認ムル場合ニハ第一項ノ每週教授時間ヲ増減シ若ハ科外講義ヲ開キ必要ナル補習學科ヲ教授スルコトアルヘシ
- 四、研究科ハ時宜ニヨリ某學科ニ就テハ本科ノ教授時間ニ合併教授スルコトアルヘシ
- 第六條 第二學年以上ノ者ハ學校長ノ許可ヲ經テ其所修語學科以外ノ專修科ヲ兼修スルコトヲ得

第三章 學年、學期及休業

- 第七條 學年ハ四月十一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第八條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス
 - 第一學期 自四月十一日 至七月十日
 - 第二學期 自九月十一日 至十二月二十四日
 - 第三學期 自一月八日 至三月三十一日
- 第九條 年中休業日左ノ如シ
 - 一、春季休業 自四月一日 至四月十日

- 一、設立紀念日 四月二十二日
- 一、夏季休業 自七月十一日 至九月十日
- 一、冬季休業 自十二月二十五日 至翌年一月七日
- 一、祝日
- 一、大祭日
- 一、日曜日

第四章 入學、在學及退學

- 第十條 入學期ハ每學年ノ始メトス但必要ノ場合ニ於テハ或語學科ニ限り臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
- 第十一條 本校ハ時宜ニ依リ所設語學科中或語學科ノ生徒募集ヲ爲サ、ルコトアルヘシ
- 第十二條 左ノ資格ヲ有スル者ニシテ品行方正身體健全ナルモノハ試験ノ上第一年級ニ入學ヲ許可ス
 - 一、中學校卒業生
 - 二、甲種商業學校卒業生
 - 三、專門學校入學者檢定規程ニ依リ檢定ニ合格シタル者
- 第十三條 入學試験ハ左ノ三科ニ就キ中學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フ
 - 一、國語漢文

一 地理歴史
一 外國語英佛獨ノ中隨意一科目

第十四條 第二學年以上ニ入ラント欲スル者ハ先ツ第一學年ニ入ルニ必要ナル資格ヲ檢定シ尋テ其志望學年以下ノ各學年ノ各學科目ニ就キ試驗ヲ行ヒ入學ノ許否ヲ定ム

第十五條 退學シタル者同一ノ語學科ニ再入學ヲ出願スルトキハ退學後三ケ年以内ニ限リ入學期ニ於テ試驗ヲ須キス原級以下ニ入學ヲ許スコトアルヘシ本校某語學科卒業生ニシテ更ニ他ノ語學科ニ入學ヲ請フトキハ入學期ニ於テ試驗ヲ須キス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 入學志願者ハ第一號書式ノ履歷書ニ卒業シタル當該學校長ノ卒業證明書又ハ檢定合格證明書ヲ添ヘ指定ノ期日內ニ於テ本校ニ差出スヘシ
第十七條 入學志願者ハ檢定料トシテ金參圓ヲ納付スヘシ但既納ノ檢定料ハ如何ナル事情アルモ之ヲ返付セズ

第十八條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金貳圓ヲ納付スヘシ
第十九條 在學中ハ他ノ語學科ニ轉スルコトヲ得ス
第二十條 生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ス
一 學力劣等若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナキ者
二 引續キ一ケ年以上缺席シタル者
三 正當ノ事由ナクシテ引續キ一ケ月以上缺席シタル者

四 出席極メテ不規則ナル者

第二十一條 退學セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ(病氣ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ)出願スヘシ

第一號書式 (用紙美濃判紙) 以下本校ニ差出スヘキ書類皆同シ
履歷書

志望學科
族籍
氏名
現住所
生年月日
印

學業

一 何年月日何地官(公私)立何學校ニ入り何學科何年級修業或ハ全學科卒業
賞罰
一 何年月日何所ニ於テ何々ニ付賞又ハ罰
以上
年月日

第五章 試業進級及卒業

第二十二條 學年試業ハ學年ノ終リニ於テ該學年間履修シタル科目ニ就キ之ヲ施行ス

第二十三條 評點ハ各科目甲乙丙丁戊ノ五種ニ分ツモノトス

第二十四條 各科目ノ學期評點ハ其學期間ノ日課評點ヲ考查シテ之ヲ定ム但日課評點ヲ採ラサル科目ニ於テハ試業ヲ行ヒ學期評點ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 各科目ノ學期總評點ハ第一學期及第二學期ノ學期評點ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十六條 各科目ノ學年評點ハ學年試業點ト學期總評點トヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十七條 學年總評點ハ各科目學年評點ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十八條 學年ノ終リニ於テ學年總評點丙以上ヲ得左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ及第セシメ其他ハ原級ニ止ム但平素缺席多キ者ハ本條ニ該當スルモ及第セシメサルコトアルヘシ

一 各科目ノ學年評點丙以上學年試業點及學期總評點丁以上ノ者

一 一科目ノ學年評點丁ナルモ其學年試業點及學期總評點丁以上ノ者

一 二科目(但一語學科ニ一科目ニ限ル)ノ學年評點丁ナルモ其學年試業點及學期總評點一ハ丙以上他ハ丁以上ノ者

一 一科目ノ學年試業點若クハ學期總評點ノ中一戊ナルモ其學年評點丙以上ノ者

第二十九條 及第者ノ席次ハ學年總評點ヲ考查シテ之ヲ定ム

第三十條 無届ニテ試業ニ缺席シタルモノハ其評點ヲ戊トス

第三十一條 試業ヲ受クルコト能ハサル者其病氣ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ事故ニ係ルモノハ其事由ヲ詳記シテ退試業ヲ出願スルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ

第三十二條 原級ニ止メタル者ハ次學年ノ始ヨリ其ノ全科目ヲ再習セシム

第三十三條 本校所定ノ學科ヲ修メ其業ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第六章 休學及缺席

第三十四條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ノ爲メ休學ヲ願出ツルトキハ詮議ノ上當該學年間之ヲ許可スルコトアルヘシ但病氣ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三十五條 休學セルモノハ次學年ノ始ヨリ原級ノ全科目ヲ履修スルモノトス但休學ノ事由消滅スルトキハ休學中ト雖モ許可ヲ得テ出席スルコトヲ得

第三十六條 兵役ニ服スルモノ又ハ戰時ニ於テ通譯トシテ從軍スルモノハ許可ヲ經テ休學シ事故止ミタル後原級ニ復スルコトヲ得

第三十七條 休學ノ許可ヲ得タルモノニハ第二十二條第二號ヲ適用セス

第三十八條 病氣又ハ事故ノ爲メ缺席スル者ハ其當日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ但病氣ノ爲メ五日以上缺席スル者ハ必醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第三十九條 前條届出ヲ爲サ、ル者ハ其情狀ニ依リ第二十八條但書ニ準シテ處分ス

第七章 授業料

第四十條 授業料ハ一學年金參拾圓トシ左ノ區分ニ依リ納付セシム
 第一學期 十二圓 四月十三日ヨリ同十五日マテ
 第二學期 十二圓 九月十三日ヨリ同十五日マテ
 第三學期 六圓 一月十三日ヨリ同十五日マテ
 但休日ニ當ルトキハ順次線下クルモノトス
 明治四十三年以前ニ入學シタルモノハ明治四十四年四月一日ヨリ向ニケ年間
 ニ限リ左ノ區分ヲ以テ授業料ニ學年金貳拾五圓ヲ納付セシム
 第一學期 金十圓
 第二學期 金十圓
 第三學期 金五圓
 第四十一條 前條ノ期日内ニ納付セサルトキハ未納中停學ヲ命シ其未納ニ週日
 ニ至ルモノハ除名ス
 第四十二條 既納ノ授業料ハ何等ノ場合ト雖モ之ヲ返付セス
 第四十三條 休學ノ許可ヲ得タル者若ハ缺席數月ニ涉ル者ト雖モ授業料ヲ免除
 セス
 第三十六條ニ依リ休學ノ許可ヲ得タルモノハ次學期以後ノ授業料ヲ納付スル
 ニ及ハス

第四十四條 新ニ入學ヲ許可セラレタルモノ及第三十六條後段又ハ第四十九條
 ニ該當スルモノハ直ニ當該學期ノ授業料ヲ納付セシム
 第四十五條 半途退學スルモノハ當該學期ノ授業料ヲ納付セシム

第八章 特待生

第四十六條 特待生ハ第二學年以上ノ本科生徒ニシテ學力優等品行方正ナル者
 ヨリ學校長之ヲ選フ
 第四十七條 學校長ハ每學年ノ末ニ於テ其學年ノ成績ニヨリ次學年ノ特待生ヲ
 指定ス
 第四十八條 特待生ハ一學年間授業料ヲ免除ス
 第四十九條 特待生ニシテ第四十六條ノ資格ヲ失フモノト認ムルトキハ直ニ特
 待生ヲ罷ム

第九章 貸費及給費

第五十條 官費又ハ官廳ノ委託金又ハ有志者ノ寄附金ヲ以テ貸費ニ充ツ但寄附
 金ハ寄附者ノ指定ニ依リ給費ニ充ツルコトアルヘシ
 第五十一條 第二學年以上ノ本科生ニシテ特別ノ保護ヲ要スル學科ヲ修メ若ハ
 學力優等品行方正ナルモノ學費支辦ノ途ナキトキハ詮議ノ上年額金百圓以内
 ノ學費ヲ貸付スルコトアルヘシ但官費ヲ以テスル貸費ハ特別ノ保護ヲ要スル

授業料 特待生 貸費及給費

學科ヲ修ムル者ニ限ル
 第五十二條 貸費ヲ受ケントスル者ハ修學ノ目的及貸費希望ノ理由ヲ詳記シ連帶保證人連署ニテ願出ツヘシ
 第五十三條 貸費ヲ受クルモノハ第二號書式ニ準シ誓約書ヲ差出スヘシ
 第五十四條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業ノ翌月ヨリ起算シ貸費ヲ受ケタル月數ニ二倍スル期限内ニ於テ其貸費金額ヲ月賦返納スヘシ
 但第五十九條ノ場合及本人死去ノ場合ハ其貸費ヲ返納スルニ及ハス
 第五十五條 貸費生又ハ給費生ニシテ左ニ掲クル一ニ該當スルトキハ直ニ其貸費若ハ給費ヲ罷ム
 一 學業懈怠若ハ成績不良ナル者
 一 品行不良ノ者
 一 休學シタル者
 以上ノ各項ニ依リ貸費ヲ罷メラレタル者ハ第五十四條ニ準シ其己ニ受ケタル貸費ヲ返納セシム
 第五十六條 貸費生ニシテ退學又ハ除名ノ處分ヲ受ケタル者又ハ病氣其他ノ事故ニ依リ退學スルモノハ其當日ヨリ三十日以内ニ己ニ受ケタル貸費金額ヲ返納スヘシ
 第五十七條 保證人死去又ハ其資格ヲ失フトキハ直ニ代人ヲ立テ更ニ誓約書ヲ差出スヘシ

第五十八條 有志者ヨリ貸費資金又ハ給費資金ヲ寄附セントスルトキハ其目的ニ從ヒ第三號第四號或ハ第五號ノ書式ニ準シ開陳書二通ヲ差出シ學校長ノ承諾ヲ受クルモノトス
 第五十九條 寄附者ハ貸費ヲ受クル者ニ對シ卒業後貸費ヲ受ケタル年數ニ均シキ期限内某事業ニ從事セシムルコトヲ條件トナスコトヲ得
 第二號書式

印紙 誓約書

私儀今般御校貸費又ハ何々貸費相受候ニ付テハ御校貸費規定ヲ遵守且卒業後ハ何々事業ニ從事可致萬一違背ノ節ハ保證人連帶ヲ以テ返納金其他一切ノ責ニ任スヘク候仍テ保證人連署ノ上誓約候也
 年 月 日

東京外國語學校何語學科生徒
 本人 氏 名 印
 現住所 氏 名 印
 族籍職業
 保證人 現住所 氏 名 印
 族籍職業

保證人

氏 現住所

名 印

東京外國語學校長宛
第三號書式

出金開陳書

何語學科生徒何名分學資トシテ金何圓也或ハ年々金何圓何回ヲ東京外國語學校ニ差出候間相當ノ生徒御選定貸與相成度候尤モ右生徒卒業ノ上ハ某事業ニ從事致サセ度儀ニ有之候間此旨豫メ誓約セシメラレ度此段併セテ開陳候也

現住所族籍

氏

名 印

年 月 日

東京外國語學校長宛

第四號書式

出金開陳書

何々貸費金ノ名目ヲ以テ獎學ノ爲メ金何圓也或ハ年々金何圓何回ヲ東京外國語學校ニ差出シ候間相當ノ生徒御選定貸付相成度候尤モ右生徒卒業ノ上從事ノ職業ハ別ニ制限不致候間貸付學資ハ御校規定ニ從ヒ返納致サセ更ニ他ノ生徒ニ御貸付相成度此段開陳候也

現住所族籍

氏

名 印

年 月 日

東京外國語學校長宛

第五號書式

出金開陳書

何々給費ノ名目ヲ以テ獎學ノ爲メ金何圓也或ハ年々金何圓何回ヲ東京外國語學校ニ差出シ候間相當ノ生徒條件指定御選定給與相成度此段開陳候也

現住所族籍

氏

名 印

年 月 日

東京外國語學校長宛

第十章 研究生

第六十條 本校卒業生ハ學年ノ始メニ於テ學校長ノ許可ヲ經テ其所修語學科ノ研究生タルコトヲ得

第六十一條 研究生ノ在學期限ハ二ケ年トス

第六十二條 研究生ハ指導教授ノ指揮ニ依リ本校所設ノ科目ヲ選修スルコトヲ得

第六十三條 研究生ノ授業料ハ第七章ノ規定ニヨル

第六十四條 研究生其研究ヲ終リタルトキハ研究ノ結果ヲ報告スヘシ學校長ハ成績ヲ考查シタル上證明書ヲ授與ス

第十一章 選科生

研究生 選科生

第六十五條 一語學科中ノ一科目又ハ數科目ヲ選修センコトヲ出願スル者アルトキハ授業上差支ナキ場合ニ限リ學年ノ始メニ於テ選科生トシテ入學ヲ許可ス

第六十六條 選科生ハ其所選ノ科目ヲ學修スルニ堪フル學力アルコトヲ要ス

第六十七條 選科生ノ入學料及授業料ハ第十八條及第七章ノ規定ニ依リ之ヲ納付セシム

第六十八條 選科生其所選科目ヲ修了シタルトキハ本人ノ申請ニ依リ修了證書ヲ授與ス

第六十九條 選科生ニハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外總テ本校諸規則ヲ適用ス

第十二章 委託生

第七十條 本校ハ官廳又ハ會社學校等ヨリ其目的ヲ指定シテ本科生又ハ選科生ノ養成ヲ委託スル場合ニハ之ニ應スルコトアルヘシ

第七十一條 會社學校ノ差出スヘキ委託願書ハ第六號書式ニ依ルヘシ

第七十二條 委託生ハ總テ本科生若ハ選科生ト同一ノ取扱ヲナスモノトス

第六號書式
委託願

族 籍

氏 名 年 齡

右者今般御校本科(選科)生トシテ何々語學科ニ入學爲致度尤モ本人在學中ニ係ル一切ノ責任ハ當會社(當學校)ニ於テ引受可申候本人履歷書相添此段相願候也

何々會社(學校)

年 月 日 何 某

東京外國語學校校長宛

第十三章 懲罰

第七十三條 規則及命令ニ違背スルモノ、校内ノ風教ヲ害スルモノ、又ハ怠惰不品行等生徒タルノ本分ニ背キタルモノハ其輕重ニ應シテ之ヲ處罰ス但處罰ハ德義ニ基キテ之ヲ斷シ單ニ形跡ノミニ拘ハラサルヘシ

第七十四條 罰科ヲ分チテ戒飭停學退學ノ三種トシ戒飭ハ訓誨ヲ加ヘテ將來ヲ戒メ、停學ハ一年間以內教室ニ入りテ修學スルコトヲ停止シ、退學ハ學校ヨリ退學ヲ命スルモノトス

附 則

第七十五條 本規則ハ明治四十四年三月一日ヨリ實施スルモノトス

東京外國語學校專修科規程

懲罰 東京外國語學校專修科規程

第一條 專修科ハ速成ヲ旨トシ本校所設ノ各語學ヲ教授スルモノトス

第二條 修業年限ハ二箇年トス

第三條 授業時數ハ一週十時間トス但授業時間ハ午後四時半以後トス

第四條 入學期ハ學年ノ始メトス但時宜ニ依リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第五條 專修科ハ時宜ニ依リ或語學科ノ生徒募集ヲ爲サル、コトアルヘシ

第六條 専門ノ學術技藝ヲ修メ又ハ一定ノ職業ヲ有シ所選ノ語學ヲ修ムルニ堪フル學力アルモノハ檢定ノ上入學ヲ許可ス

第七條 入學志願者ハ第七號書式ノ履歷書ニ入學檢定料及寫眞ヲ添ヘ指定ノ期日内ニ本校ニ差出スヘシ

入學檢定料ハ金一圓五十錢トシ納付後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ返付セス但本校規則第六條ニ依リ兼修スルモノ及本校卒業生若ハ修了生ニシテ入學スルモノハ之ヲ納付スルニ及ハス

第八條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ入學料金一圓ヲ納付スヘシ但本校規則第六條ニ依リ兼修スルモノ及本校卒業生若ハ修了生ニシテ入學スルモノハ之ヲ納付スルニ及ハス

第九條 授業料ハ一學年金二十圓トシ左ノ區分ニ依リ納付セシム

第一學期	金八圓	四月十三日ヨリ同十五日マテ
第二學期	金八圓	九月十三日ヨリ同十五日マテ
第三學期	金四圓	一月十三日ヨリ同十五日マテ

但休日ニ當ルトキハ順次繰リ下クルモノトス

第十條 第一學年及第二學年ノ試業ニ及第シタルモノニハ修了證書ヲ授與ス但毎學期授業日數ノ二分ノ一以上出席シタルモノニ非サレハ學年試業ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條 專修科生ニハ本校規則第三章第四章第十九條第二十一條第五章第十二條乃至第三十二條第六章第三十四條第三十五條第三十六條第七章第四十一條乃至第四十五條及第十三章ヲ適用ス

第十二條 第六條ノ資格ヲキモノト雖モ授業上差支ナキ限リ檢定ノ上聽講生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ但聽講生ノ入學檢定料入學料及授業料ハ本校規程第七條第八條第九條ノ規程ニ據ル

第七號書式 用紙美濃列紙(氏名ニハ傍訓ヲ施スヘシ)

履 歷 書

本籍(府、縣、郡、市、區、町、村、字、番、地)
 族稱(華、土、族、平民、戸主及ハ戸主トノ續柄)
 志望學科(第二志望學科)

何 某印
 何年何月何日生

現 住 所
 一學業 何年何月何地官公立何學校卒業(最終卒業ノ學校)

一業務 何年何月何日何省何官ニ任セラレ何課ニ勤務又ハ何會社員ニ採用セラレ何係勤務又ハ何業ニ従事ス(現在ノ官職業務等)
以上

年月日

附則

第十三條 本規程ハ明治四十三年三月十一日ヨリ施行ス

生徒心得

- 第一條 本校生徒ハ常ニ教育勅語ヲ遵奉シ須臾モ之ニ背カサランコトヲ期スヘシ
- 第二條 學業ヲ勵ミ規律ヲ守リ言行ヲ慎ミ苟モ生徒タル本分ヲ失フコトアルヘカラス
- 第三條 本科生ハ制服制帽ヲ着用シソノ他ノ者ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ
- 第四條 學校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ校内ニ於テ猥ニ會同スヘカラス
- 第五條 本籍氏名又ハ宿所ヲ變更シタルトキハ速ニ届出ツヘシ
- 第六條 凡ソ告示ハ之ヲ掲ケタル日ヨリ一般ニ知了シタル者ト認ムルヲ以テ常ニ之ニ注意スヘシ
- 第七條 校内所定外ノ場所ニ於テ飲食喫烟スヘカラス

第八條 本校生徒ハ學校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他學校ノ入學試験ヲ受クルヲ得ス

本校制帽及制服規定

區	分	製	式	品	質	色
服	鈕	脊廣形立襟	小倉織「セル」	眞	眞	黒、紺、藍、鼠、霜降
襟	章	MAEHTD HTD 又ハKノ字	眞	眞	眞	金
帽	章	海軍形	羅	羅	紗	黒
帽	章	矩火臺ニL字ヲ纏ヒ左右ニ羽翼ヲ張ル	L字眞鍮他ハ七寶	L字眞鍮他ハ七寶	L字金他ハ銀色	L字金他ハ銀色

生徒心得 本校制帽及制服規定

東京外國語學校圖書館規則

第一章 總則

- 第一條 本校ノ圖書ハ總テ書庫ニ貯藏スルモノトス
- 第二條 圖書ヲ分チテ左ノ二種トス
 - 第一種 通常圖書
 - 第二種 特別圖書
- 第三條 本校職員卒業生及生徒ハ圖書ヲ閱覽シ又ハ借受クルコトヲ得
前項以外ノ者ニシテ本校ノ圖書ヲ閱覽シ又ハ借受ケント欲スルモノハ校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 卒業生及生徒ニシテ圖書ヲ借受ケント欲スルモノハ豫メ保證人ヲ立ツ
保證人ハ父兄又ハ東京市内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者若ハ本校ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル
- 第五條 掛員ノ外故ナク書庫ニ出入スルコトヲ得ス但職員研究生及前條ノ許可ヲ得タル者ニシテ圖書ノ檢索ヲ要スルトキハ此ノ限ニアラス
- 第六條 第二種ノ圖書ヲ閱覽シ若ハ借受ケント欲スルトキハ校長ノ許可ヲ受クヘシ

- 第一種ノ辭書諸學科ニ通スル參考書及閱覽室備付ノモノヲ借受ケント欲スルトキ亦同シ
- 第七條 公用ニアラサレハ同一ノ圖書二部以上ヲ閱覽シ又ハ借受クルコトヲ得ス
- 第八條 本館ハ圖書ノ委託ヲ受クルコトアルヘシ
前項ニ依リ委託セラレタル圖書ハ本校ノ圖書ト同一ノ取扱ヲナスヘシ

第二章 圖書借覽

- 第九條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ閱覽證用紙ニ式ノ如ク記入シテ圖書閱覽票ヲ添ヘ之ヲ掛員ニ差出スヘシ
- 第十條 生徒閱覽所ニ出入セントスルトキハ圖書閱覽票ヲ攜帶スヘシ
- 第十一條 生徒ニシテ圖書ヲ閱覽セント欲スル者ハ學年毎ニ圖書閱覽票ノ交付ヲ受クヘシ
- 第十二條 圖書閱覽ハ閱覽所ニ於テシ他所ヘ携出スルコトヲ得ス
- 第十三條 生徒ハ一員ニ付同時ニ五冊以上ヲ閱覽スルコトヲ得ス
- 第十四條 閱覽所ニ在リテハ喫煙音讀談話等渾テ他人ノ防害ト爲ルヘキ行動ヲ爲スヘカラス
- 第十五條 閱覽所ハ休業ノ日ヲ除クノ外毎日午前八時ヨリ午後四時マテ之ヲ開ク

但土曜日ハ正午十二時限リトス

第十六條 圖書ヲ借受ケントスル者ハ之ヲ借用證用紙ニ認メ署名ノ上掛員ニ差出スヘシ

第十七條 圖書ノ貸付冊數ハ五冊ヲ以テ限度トス

但公用ノモノハ此限ニアラス

第十八條 生徒カ圖書ヲ借受ケント欲スルトキハ擔任教授ヨリ保認證ヲ受ケテ掛員ニ差出スヘシ

但研究生ハ本條ノ規定ヲ適用セス

第十九條 本科生選科生及專修科生ノ借受ケ得ヘキ圖書ハ教科書ニシテ本校ニ數部ヲ備フルモノニ限ル

第二十條 借受圖書ハ他人ヘ轉貸スルコトヲ許サス

第二十一條 借受圖書ハ七月十日迄ニ返納スルコトヲ要ス

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ其借受ケタル圖書ハ悉ク之ヲ返納スルコトヲ要ス

一 職員カ退職若ハ轉任スルトキ

二 生徒カ卒業、退學若ハ休學スルトキ

第二十三條 夏期休業中ハ職員ヲ除クノ外校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ圖書ヲ借受クルコトヲ得ス但本條ニ依リ借受ケタル圖書ハ休業ノ末日迄ニ之ヲ返納スルコトヲ要ス

第二十四條 貸付シタル圖書ハ臨時返納セシムルコトアルヘシ

但點檢ノ爲メニスル場合ハ公用貸付ノ圖書ニ限リ掛員出張シテ檢閱スルコトアルヘシ

第三章 圖書檢索

第二十五條 圖書ヲ檢索セントスルトキハ其旨ヲ掛員ニ告ケ承諾ヲ得ヘシ但研究生ハ主任教授ヨリ保認證ヲ受ケテ之ヲ掛員ニ差出シタル後本條ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 同時ニ五人以上書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得ス

第四章 制裁

第二十七條 圖書ヲ亡失毀損シタルトキハ修理ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシム

但時宜ニ依リ修理費用又ハ相當ノ代價ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十八條 本則ニ違背シタルモノハ其輕重ニ從ヒ一定ノ期間又ハ無期限ニ圖書ノ閱覽及借受ヲ禁スルコトアルヘシ

但第二十二條ノ規定ハ本條ノ場合ニ準用ス

様式

(一) 圖書閱覽票

三寸九分

250	
東京外國語學校圖書閱覽票	
語學科	科第 年
姓名	名
自明治	年 月 日
至明治	年 月 日

分三寸二

裏面

- 一本票ハ本學年間有効トス次學年ニ於テハ更ニ引換ヘ交付スヘシ
- 一閱覽所ニ出入ノ節ハ必ス本票ヲ携帶スヘシ
- 一閱覽圖書ヲ借受ケタルトキハ本票ヲ掛員ニ渡シ圖書返納ノ際之ヲ受領スヘシ
- 一本票ハ他人ヘ轉貸スルコトヲ許サス之ヲ遺失シタルトキハ速ニ届出ツヘシ
- 一卒業退學者ハ休學スルトキハ本票ヲ返納スヘシ
- 一閱覽所ニアリテハ帽ヲ着ケ風儀ヲ紊リ其他閱覽者ノ妨害トナルヘキ所爲アルヘカラス

(表ニ圖書掛ノ印)

(二) 圖書檢索保認證

備考 本票用紙ハ厚紙ヲ以テ製ス

檢索保認證

語學科研究生

氏名

右ヘ圖書ノ檢索ヲ承認相成度候也

明治 年 月 日

主任教授 氏名 印

(三) 圖書借受保認證

保認一證

一何々何冊

右今般何々ノ教科書ニ相用ヒ候

條該生徒ヘ貸與相成度候也

明治 年 月 日

擔任教授 氏名 印

(四) 保證書

東京外國語學校圖書館規則制裁

收入
印紙

保證書

(用紙美濃判紙)

族籍

語科氏名

右之者貴校圖書ヲ借受ケ圖書館規則第二十七條ノ義務ヲ果サ、ルトキハ拙者ニ於テ一切其ノ責任ヲ負擔致スヘク候仍テ保證書如斯候也

族籍職業

明治 年 月 日

保證人

氏名印

東京外國語學校長宛

東京外國語學校圖書館委託圖書取扱手續

- 第一條 本校圖書館規則第八條ニ依リ圖書ヲ委託セントスルモノハ申込書ニ目錄ヲ添付シテ本校々長ニ差出スヘシ
- 第二條 本校ハ委託ニ應シ圖書ノ引渡ヲ受ケタルトキハ委託圖書預證ヲ交付ス但新聞紙雜誌等ニ對シテハ此ノ限リニアラス
- 第三條 新聞紙雜誌等ニシテ合本シタルモノハ書籍ト見做ス
- 第四條 圖書委託者ハ其ノ委託圖書ニ限リ之ヲ閱覽シ又ハ借受クルコトヲ得
- 第五條 委託圖書ノ保存上必要ナル修理ハ委託者之ヲ負擔ス

第六條 委託圖書ハ本校ノ都合ニヨリ委託ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトアルヘシ

第七條 圖書ノ委託期限ハ左ノ二種トス

- 一 通常期限 五箇年
 - 一 特別期限 委託者ノ希望ニ依リ本校之ヲ定ム
- 新聞紙雜誌等ハ前年分ヲ翌年三月迄ニ還付スルモノトス
- 第八條 前條ノ期限内ト雖モ委託者ノ希望ニ依リ止ムヲ得サルモノト認メタルトキハ其委託ヲ解除スルコトアルヘシ
- 第九條 委託期限満了シタルトキハ委託者ノ希望ニ依リ引續キ委託ニ應スルコトアルヘシ

寄附

本校設置以來金員建物其他ヲ寄贈セシモノ左ノ如シ

寄贈品及寄贈ノ名義	寄贈者
伊語學科生徒獎學給與金及伊語ニ關スル圖書講求費	伊學協會長 侯爵 鍋島直大
柔道、擊劍、道場、熾艇	東京外國語學校々友會長 文學博士 高楠順次郎

東京外國語學校圖書館委託圖書取扱手續 寄附

佛語學科第一級

森 泰吉 (岐阜)	長 澤武男 (山梨)	村 方 照一 (東京)	安 田 儀平 (兵庫)
吉 見 春道 (北海道)	高 橋 勝 郎 (岩手)	行 方 照一 (千葉)	淺 黃 積吉 (山形)
阿 部 實 (東京)	小 山 博 (福島)	大 野 勘三郎 (栃木)	時 田 清 (埼玉)
安 藤 憲 治 (神奈川)	國 井 龜五郎 (山形)	大 關 太一 郎 (茨城)	友 田 二 郎 (兵庫)
近 藤 子 郎 (高知)	松 井 益 吉 (東京)	阪 口 梅 造 (東京)	山 口 英 爾 (群馬)
星 野 辰 男 (長野)	森 田 吉 太 郎 (東京)	佐 野 熊 太 郎 (兵庫)	山 本 九 一 (香川)
井 上 卯 男 (山梨)	中 川 陽 太 郎 (山梨)	佐 藤 哲 元 郎 (秋田)	山 崎 啓 宇 一 (茨城)
岩 井 仁 吉 (埼玉)	岡 野 四 郎 (香川)	鹽 島 哲 磨 (山梨)	吉 岡 好 二 (兵庫)
小 島 興 宗 吉 (東京)	岡 野 馨 (東京)	鈴 木 孝 雄 (東京)	

獨語學科第三級

吉 川 速 男 (東京)	松 室 健 男 (東京)	阿 部 康 藏 (岩手)	甲 斐 重 興 (岐阜)
前 田 陽 之 助 (東京)	溪 常 雄 (石川)	清 家 蕭 (高知)	山 縣 辰 吉 (東京)
安 威 明 (東京)	別 府 千 代 太 郎 (長野)	竹 井 篤 篤 (東京)	倉 田 末 雄 (長野)
勝 賀 瀨 清 茂 (高知)	小 磯 寛 (東京)	佐 藤 寛 吾 (大分)	三 村 正 雄 (岩手)
藤 田 敏 雄 (東京)	竹 中 竹 (大分)	植 松 五 郎 (神奈川)	齋 藤 福 進 (岩手)

獨語學科第二級

荒 山 隆 (東京)	大 久 保 幸 次 (東京)	上 野 克 三 (新潟)	磯 部 幸 一 (山口)
勝 山 靜 夫 (東京)	池 田 傳 郎 (新潟)	青 野 武 夫 (東京)	相 川 直 三 (東京)
鳥 羽 多 助 (佐賀)	平 野 愛 造 (島根)	黒 川 繁 美 (静岡)	岡 本 英 磨 (愛媛)

獨語學科第一級

阿 部 精 (群馬)	越 村 長 次 (石川)	永 山 憲 一 (青森)	杉 本 初 雄 (東京)
池 田 蕙 雲 (大阪)	國 木 政 雄 (富山)	内 藤 銓 太郎 (東京)	寺 島 安 (東京)
今 田 真 三 (岡山)	牧 野 勝 藏 (福井)	岡 田 利 藏 (愛知)	渡 邊 深 (東京)
今 岡 十一 郎 (島根)	益 谷 茂 藏 (石川)	佐 藤 兵 藏 (秋田)	柳 井 春 男 (大分)
石 原 實 (三重)	光 川 忠 一 (兵庫)	車 谷 政 親 (香川)	橫 堀 五 郎 (東京)
石 川 半 次 郎 (栃木)	森 本 瀧 二 (徳島)	志 母 谷 武 一 (東京)	美 添 五 郎 (東京)
磯 部 友 太 郎 (東京)	本 尾 小 二 郎 (東京)	白 崎 享 一 (福井)	
伊 藤 憲 之 (東京)	村 岡 尊 朝 (京都)	庄 子 男 (岩手)	
彌 井 幾 治 郎 (奈良)	村 田 耕 藏 (山口)	鈴 木 泰 次 郎 (東京)	

露語學科第三級

宮 川 船 夫 (山形)	中 村 長 三 郎 (愛知)	淺 川 爲 吉 (山梨)	廣 島 觀 一 郎 (岡山)
増 田 正 雄 (宮城)	内 村 提 壽 (熊本)	坪 田 亨 (福井)	
大 森 大 次 (新潟)	米 川 正 夫 (岡山)	大 谷 梅 次 郎 (茨城)	

露語學科第二級

富 樫 潤 (北海道)	木 暮 達 雄 (群馬)	太 田 三 孝 (奈良)	豊 原 清 雄 (東京)
中 濱 武 一 (岡山)	大 谷 二 郎 (福井)	泉 波 信 一 (栃木)	山 中 忠 雄 (宮城)
藤 井 利 壽 (東京)	伊 藤 卯 一 (東京)	仙 波 信 一 (栃木)	椎 名 政 太 郎 (長野)

本校生徒現員本科生徒

梅田朝吉 (千葉)	半野憲二 (福島)	手塚光凱 (長野)	
楠瀬長生 (高知)	前田忠三郎 (青森)	吉田喜代太 (新潟)	
露語學科第一級			
安達文雄 (東京)	松永信成 (兵庫)	高家太郎 (福島)	八木橋文平 (青森)
馬場哲哉 (福島)	野田武彦 (北海道)	武井治 (北海道)	柳澤新一郎 (長野)
廣野純一 (青森)	二關壽郎 (岩手)	高澤公太郎 (新潟)	
近藤敏治 (東京)	佐竹美好 (静岡)	上野龜彦 (熊本)	
伊語學科第三級			
◎大江宗丸 (山形) 吉枝友德 (愛媛)			
伊語學科第二級			
◎井上靜一 (東京) 武井守成 (東京)			
西語學科第三級			
◎大庭嘉三郎 (島根) 廻源助 (東京)			
富田謙一 (東京)	福川薩然 (山口)	細中仙次郎 (兵庫)	長谷川武彦 (新潟)
妹尾正男 (岡山)	佐々木憲正 (東京)	小笠原貞橋 (東京)	若林高彦 (愛媛)
西語學科第二級			
村上虎次郎 (山口) 松木兼一 (兵庫)			
坪田信雄 (滋賀)	大中英春 (東京)	杉本光雄 (兵庫)	酒井市郎 (愛媛)
		杉本光雄 (兵庫)	半澤虎尾 (宮城)

原口七郎 (佐賀)			
西語學科第一級			
福武馨 (岡山)	松田五郎 (北海道)	齋藤武雄 (秋田)	山本信一 (長野)
早尾季鷹 (千葉)	茂木清作 (栃木)	澁谷源輔 (秋田)	吉井昌平 (鹿兒島)
稻富恒太郎 (佐賀)	森本三雄 (兵庫)	山田弘三 (群馬)	
古關富綱 (福島)	永田綱三 (東京)		
清語學科第三級			
◎佐藤留雄 (岩手) 小貫健造 (茨城)			
秩父固太郎 (東京)	藤江憲一 (愛媛)	恩田忠次 (東京)	高木富三郎 (京都)
青山殖 (埼玉)	附柴宇一 (宮城)	小倉達二 (長野)	米田祐太郎 (東京)
金田宗次 (岡山)	星澤研壽 (宮城)	天野真文 (東京)	新井誠一 (群馬)
渡會貞輔 (山形)	荒崎英雄 (茨城)	仲本正秀 (沖繩)	
山本惣治 (新潟)	山崎英雄 (茨城)	武田寧信 (千葉)	
清語學科第二級			
◎香川四郎 (香川) 梅原宗城 (茨城)			
中谷俊作 (静岡)	須藤登平 (群馬)	藤原利明 (高知)	坂井高一 (佐賀)
松本德太郎 (群馬)	泉谷峰五郎 (佐賀)	立林一衛 (京都)	紅林英一 (静岡)
尾坂一佐 (岡山)	新谷鍋潤 (三重)	廣瀨規矩治 (茨城)	田口國榮 (長崎)
白田集助 (長野)	眞鍋 (香川)	土田獎吾 (茨城)	
澤村流治 (福岡)	林 (富山)	丸尾敏雄 (岐阜)	

本校生徒現員本科生徒

清語學科第一年級

濱元松太郎 (富山)	宮脇賢之介 (兵庫)	大島敬一 (山形)	内木壽滿治 (東京)
久玄太郎 (高知)	森保次 (東京)	大塚定孝 (廣島)	海原宏文 (三重)
堀内慶次 (東京)	村瀬興神奈川)	志水士城 (大分)	八重柏卓 (岩手)
神田政之助 (東京)	村田廣舜 (兵庫)	鈴木勝夫 (茨城)	吉野近藏 (栃木)
小林精策 (東京)	大島讀次 (神奈川)	角田不二男 (東京)	

蒙古學科第一年級

菊竹實藏 (福岡)	古山茂義 (神奈川)	佐々木一耶 (秋田)	内海源治 (宮城)
北川政二郎 (石川)	野中伊平 (静岡)	佐藤富江 (福島)	

暹羅語學科第一年級

江塚儀一 (静岡)	池田林儀 (秋田)	近藤鷹治 (廣島)	大河蕭 (京都)
服部繁松 (静岡)	梶田均 (熊本)	前田子丑 (德島)	祖父江一雄 (岐阜)
堀部亮一 (和歌山)	近藤嘉平 (德島)	長井磐二郎 (山梨)	角谷憲夫 (和歌山)

馬來語學科第一年級

別所直尋 (宮城)	小林晋作 (群馬)	岡田丈夫 (神奈川)	末廣義男 (岡山)
早川資 (茨城)	望月五一 (山梨)	岡村治 (静岡)	高松正章 (東京)
堀岡文吉 (兵庫)	守田茂人 (福岡)	大田丈太郎 (大阪)	寺町文男 (東京)
今井青藏 (群馬)	日塔榮作 (山形)	鈴木一夫 (東京)	鳥山孝一 (山形)

ヒンドスタニ語學科第一年級

池田辰夫 (東京)	野々村功存 (岐阜)	高橋温 (東京)	
木村貞治郎 (茨城)	小川正 (静岡)	戸谷貞雄 (東京)	

朝鮮語學科第三年級

◎田川忠信 (島根)	茂手木知貞 (山梨)	萩谷二郎 (茨城)	淺野保之 (東京)
小田毅 (長崎)	扇昌夫 (長崎)	佐藤徳太郎 (新潟)	内田蕭 (兵庫)
吉野正夫 (千葉)	津山辨一 (大阪)	村上耻己 (長崎)	

朝鮮語學科第二年級

◎太中隆四郎 (島取)	二藤部行義 (山形)	仁位豐 (長崎)	杉山邦衛 (青森)
清水兵三 (島根)	山田俊夫 (山形)	水野昇 (長崎)	福永市次 (熊本)

朝鮮語學科第一年級

石井重次 (福島)	每熊敬四郎 (長崎)	中田義治 (山梨)	立山彦熊 (鹿兒島)
上村宇多彌 (東京)	三浦清三郎 (秋田)	小坂部蘊 (新潟)	寺岡省 (東京)
木内忠雄 (東京)	森山正誠 (茨城)	須藤忠 (栃木)	渡邊梅之進 (山口)

選科生

佛語學科第三年級

櫻井繁 (東京)	
----------	--

本校生徒現員選科生

佛語學科第二二年級	洪 泰 夫 (福岡) 長 田 正 義 (長野)
佛語學科第一一年級	松宮龍太郎 (東京) 安 富 正 造 (神奈川)
獨語學科第三年級	王 愷 澤 (清國)
獨語學科第二二年級	板倉東海男 (東京) 梶 川 清 美 (東京)
獨語學科第一一年級	伊藤彰五郎 (千葉) 角田常次郎 (千葉)
露語學科第二二年級	嵐崎 勝 次 (鹿兒島) 千 家 尙 志 (佐賀)
露語學科第一一年級	三宅 殷 吾 (兵庫) 内 藤 省 一 (東京)
伊語學科第二二年級	山中 政 之 (神奈川)

西語學科第一一年級	田中 謙 治 (福岡)
清語學科第三年級	市 吉 眞 一 (福岡) 池田敬之助 (東京)
清語學科第二二年級	大 中 熊 雄 (佐賀)
清語學科第一一年級	河西金重那 (山梨)
馬來語學科第二二年級	花 井 申 (埼玉) 川 西 龍 三 (兵庫)
馬來語學科第一一年級	森田 三 郎 (東京) 木 全 吉 吾 (愛知)
專修科生	井上 眞 吾 (鹿島)

(氏名ノ上ニ〇印アルモノハ本科ヨリ兼修スルモノナリ)

本校生徒現員專修科生

英語學科第二二年級

蓋谷重武 (東京)	白井眞策 (兵庫)	木村久七郎 (群馬)	山本鶴松 (静岡)
高江幸彦 (大分)	鈴木孝助 (神奈川)	中川徹夫 (京都)	邊見由太郎 (東京)
大川福松 (茨城)	伊坂賢二 (徳島)	後藤利長 (東京)	櫻井忠之介 (茨城)
桐生筆次 (新潟)	佐藤瀧男 (廣島)	豐島旭 (茨城)	後藤吳樓 (兵庫)
木田利暢 (島根)	飯島英次 (東京)	入江新吉 (東京)	中川茂雄 (愛知)
佐野喜三郎 (東京)	能勢勝夫 (岡山)	岸田舜道 (滋賀)	藤井好祐 (山口)
早川義治 (東京)	藤岡健藏 (富山)	榎本健次 (東京)	佐々木英夫 (埼玉)
松本徹三 (東京)	小笠原徳兵衛 (岩手)	正田徳太郎 (廣島)	岡本信三 (東京)
三谷錦太郎 (東京)	森本憲章 (東京)	秋山敏長 (東京)	瀧村信男 (愛知)
高須岩代 (東京)	土井敬一 (和歌山)	曾我順雄 (神奈川)	
村上喜平 (福島)	間宮孝 (静岡)	種田辰男 (岐阜)	

英語學科第一一年級

有川小三 (鹿兒島)	長谷川潔 (東京)	池上慶造 (兵庫)	小森田辰平 (熊本)
江見晉 (新潟)	早川止 (福岡)	井上確太郎 (埼玉)	近藤儀三郎 (福岡)
藤野憲夫 (静岡)	平井準輔 (岡山)	井上信善 (茨城)	小崎敏吉 (愛知)
浦幸藏 (東京)	本間信藏 (山形)	石橋定三 (東京)	久保田務 (北海道)
濱幸次郎 (長野)	市川正俊 (長野)	伊藤健 (福井)	熊倉理一 (東京)
濱耕三 (東京)	市川正宣 (静岡)	伊藤友董 (群馬)	空閑重峰 (佐賀)
原耕三 (東京)	井出徳夫 (長野)	神崎友吉 (栃木)	倉見正憲 (鳥取)
橋本文彌 (滋賀)	井出徳夫 (長野)	勝田八十一 (福井)	黒野正憲 (東京)

佛語學科第二二年級

丸本洋吉 (廣島)	岡本忠記 (大分)	菅生好敏 (福島)	山口辰吉 (東京)
宮崎英次 (奈良)	岡本亮介 (東京)	高松鶴吉 (千葉)	山村清太郎 (滋賀)
望月世教 (東京)	岡村彦衛 (山口)	高宮岩夫 (千葉)	山中仁太郎 (長野)
村井竹治 (東京)	沖島眞三郎 (岡山)	高瀬陸助 (岐阜)	柳井三之助 (東京)
中川茂作 (茨城)	大井五郎 (福井)	和田省三 (廣島)	吉田信 (東京)
中谷俊作 (静岡)	關徳平 (神奈川)	和田三郎 (大阪)	吉田貞 (兵庫)
西巻周光 (新潟)	末石元松 (千葉)	若松盛之助 (東京)	

佛語學科第一一年級

加納道生 (大分)	飯島徳次 (埼玉)	藤永勝典 (長崎)	野中鼎 (佐賀)
富士徳治 (奈良)	小泉真俊 (東京)	江木定男 (東京)	岡中三 (三重)
杉本連治 (愛知)	松井九郎 (群馬)	赤羽右 (長野)	小野田元真 (東京)
赤羽英雄 (福島)	東守七 (三重)	松浦一老 (熊本)	大澤竹次郎 (岩手)
赤坂芳次 (埼玉)	五十嵐嘉太郎 (青森)	三宅良夫 (廣島)	坂本滿次郎 (千葉)
阿久津武義 (栃木)	池田有信 (新潟)	宮地重興 (佐賀)	櫻井宗吉 (東京)
安間立雄 (兵庫)	猪熊忠次 (栃木)	森田仙彌 (茨城)	島村榮之助 (埼玉)
我妻孝助 (宮城)	井上吉次 (和歌山)	永澤六郎 (宮城)	鈴木悦 (愛知)
深瀬權藏 (山形)	伊藤藤實 (千葉)	西垣紀元 (山口)	高橋健雄 (東京)
藤原伊兵衛 (大阪)	岩田凡平 (京都)	西川孝利 (東京)	
羽下昂治 (新潟)	金田 (漸) (神奈川)		
長谷川貞三 (大阪)			

本校生徒現員專修科生

高橋宗 (東京)	田村秀 (山口)	山本春水 (高知)	村田辰三 (静岡)
竹下康國 (京都)	植村家治 (東京)	山本犀藏 (兵庫)	庄司又三郎 (宮城)
竹内節 (長野)	梅北兼彦 (鹿兒島)	山本久太 (岡山)	永井準一郎 (千葉)
獨語學科第二級			
渡邊英保 (東京)	加藤清一 (山口)	前澤誠助 (長野)	村田辰三 (静岡)
水谷英保 (東京)	宇野裕三 (石川)	福森永太郎 (富山)	庄司又三郎 (宮城)
村上胡磨雄 (岡山)	西岡定太郎 (高知)	佐野正造 (福岡)	永井準一郎 (千葉)
永山武美 (北海道)	田邊定吉 (北海道)	福士直次郎 (青森)	赤井春海 (千葉)
松橋達生 (青森)	池田隆平 (新潟)	加藤義三 (東京)	近藤金一 (愛知)
原田親雄 (北海道)	伊藤隆清 (愛知)	石田平七 (京都)	
花岡次郎 (東京)			
獨語學科第一級			
荒木孟 (熊本)	市島賢次郎 (新潟)	小村定吉 (滋賀)	松本照吉 (高知)
淺野彦太郎 (愛知)	今井恭次郎 (群馬)	小島德太郎 (東京)	松内則三 (東京)
江藤清角 (鹿兒島)	石川興 (北海道)	厚東禎造 (山口)	光岡安藝 (佐賀)
藤井政雄 (東京)	石森勉 (長野)	久保田讓之 (東京)	溝淵兼次 (東京)
福井四郎 (奈良)	影山藤作 (岡山)	久我貞三郎 (千葉)	森忠藏 (東京)
林牛藏 (大阪)	小林美之輔 (埼玉)	熊井正三 (東京)	森山隆富 (和歌山)
濱田草瑛 (埼玉)	小林利吉 (東京)	倉木力雄 (山梨)	中島濱三郎 (栃木)
廣瀬瑛 (山梨)	小見山壽昌 (京都)	前川富太郎 (香川)	○中島進治 (長野)
一宮重之助 (島根)		松本忠雄 (長野)	西本直民 (東京)

野原賢輔 (岐阜)	佐治惠蓮 (東京)	白山茂次郎 (大阪)	武田外希往 (石川)
奥田直恭 (東京)	重久廣一 (東京)	曾我奎祐 (岐阜)	鶴岡重治 (山形)
押谷鐵三郎 (滋賀)	島田英健 (東京)	鈴木熊太郎 (東京)	山田燕一 (愛知)
大塚健治 (新潟)	鹽田與吉 (群馬)	鈴木三郎 (秋田)	矢田次郎 (東京)
佐藤輝一 (新潟)	鹽野直一 (三重)	高澤貞義 (富山)	米田國臣 (熊本)
獨語學科第二級			
瀧文宣 (香川)	龜坂常三郎 (富山)	村上啓作 (栃木)	工藤新 (富山)
岡見潤吉 (京都)	泉名英 (静岡)	宮崎義朗 (大阪)	
梅澤銀造 (宮城)	服部均 (東京)	前田儀作 (東京)	
獨語學科第一級			
趙翰珍 (清國)	黒石信一 (東京)	中西惟義 (東京)	尾瀬敬止 (京都)
笠井清三郎 (三重)	滿川龜太郎 (東京)	大平良平 (新潟)	吉武省吾 (福岡)
伊語學科第二級			
佐々木喜市 (大阪)			
西語學科第一級			
青木準平 (栃木)	齋藤準平 (宮城)	山中喜一 (茨城)	
駒崎秀胤 (兵庫)	田代己代次 (東京)		
清語學科第二級			

濱中直樹(靜岡) 牧野鎌太郎(愛知) 荒井 恰(愛知)
堀田丈五郎(石川) 櫻庭 巖(青森) 門馬福之進(福島)

清語學科第一年級

吳 尙 殷(朝鮮) 石 田 力(東京) 小山 清 次(東京) 住 吉 重 之(東京)
原 田 三 平(山口) 小 林 榮 助(東京) 中 川 宮(神奈川) 時 田 傳 左 衛 門(埼玉)
林 海 三(岐阜) 兒 玉 豪 雄(廣島) 奥 山 巖(大阪) 内 田 松 三 郎(愛知)
林 國 太 郎(德島) 河 野 勝 之 介(茨城) 齋 藤 源 次 郎(東京) 渡 邊 源 助(福岡)
林 林 之 介(東京) 越 山 雄 四 郎(鹿兒島) 志 摩 英(神奈川) 山 寺 吉 之 助(千葉)

蒙古語學科第一年級

石 原 默 應(靜岡) 竹 内 源 次 郎(福岡)

ヒンドスタニー語學科第一年級

石 塚 邦 器(東京) 大 熊 正 男(東京)

朝鮮語學科第二年級

南 文 止(大分) 高 橋 市 太 郎(靜岡) 藤 田 勇(鹿兒島)

聽講生

英語學科第二年級

鈴木 信 弘(東京) 小 中 謙 吉(奈良)

佛語學科第二年級

川 口 順 次 郎(三重) 出 水 百 郎(熊本) 丸 尾 順 吉 郎(岐阜) 加 藤 總 次 郎(和歌山)
山 下 誠 一(東京)

獨語學科第二年級

肥 田 豐(山梨) 木 原 靜 輔(山口) 中 村 四 郎(宮崎) 茂 木 知 明(東京)

露語學科第二年級

崎 田 安 正(長崎) 岩 下 大 吉(鹿兒島) 小 島 茂(千葉)

露語學科第一年級

小 松 保 植(高知) 江 口 金 馬(佐賀)

伊語學科第二年級

三 島 健 三(東京) 長 嶺 岸 治(長崎)

清語學科第二年級

日 野 月 明 喜(愛媛) 田 中 宣 重(東京)

相澤 顯 正(神奈川)

本校生徒年齢表

本 科	最 高	最 低	平 均
第一 年 級	二七、一〇 _月	一七、二 _月	一九、七 _月
第二 年 級	三三、三	一八、一〇	二〇、一〇
第三 年 級	三四、一〇	一九、一	二二、四

本校卒業生

英語學科

(いろは順)

(表中×印ヲ附セ
ルハ死亡者ナリ)

明治三十三年七月第一回卒業生 (十人)

星野 幹 (東京)	渡邊 謙二 (三重)	森 川 乙 猪 (高知)
星野 政吉 (東京)	片山 寛 (長野)	芹 澤 政 衛 (静岡)
奥坂角太郎 (徳島)	高野 圭一 (茨城)	
長 連 樹 (石川)	松浦與三松 (福井)	

明治三十四年七月第二回卒業生 (十一人)

伴野 八郎 (兵庫)	高 岡 讓 (和歌山)	青 柳 幹 一 (山梨)
尾上瀧太郎 (福岡)	×中園 修 吾 (神奈川)	齋 藤 千 之 (兵庫)
上 條 辰 藏 (長野)	隈 川 豊 (東京)	平 井 隼 之 助 (大阪)
高橋 行次 (滋賀)	古賀 十二郎 (長崎)	

明治三十五年七月第三回卒業生 (十九人)

×伊藤 常重郎 (三重)	大橋 榮三 (東京)	奥 村 清 一 (佐賀)
伊藤 正胤 (高知)	小野 清一 (東京)	桂 田 次 郎 (鳥根)

本校卒業生 英語學科

竝河昭廣 (滋賀)
 山崎壽春 (鳥取)
 野田久三郎 (大阪)
 野口兼太郎 (東京)
 山本英造 (東京)

淵上巖 (福岡)
 秋元正四 (東京)
 湯淺實 (東京)
 宮崎謙平 (北海道)
 御子柴頼一 (長野)

×宮嶋孫三郎 (長野)
 關善八 (熊本)
 鈴木利貞 (佐賀)

明治三十六年七月第四回卒業生 (六人)
 錦織房之助 (岩手)
 太田立助 (京都)
 小山田千代壽 (青森)
 熊田敏 (滋賀)
 青木松之丞 (島根)
 赤羽作郎 (長野)

上杉憲章 (山形)

明治三十七年七月第五回卒業生 (十六人)

今西喜藏 (奈良)
 長谷省三 (三重)
 吉田曉三 (廣島)
 本多石介 (福井)
 小野越 (静岡)
 加唐謙吉 (東京)

角田松次郎 (群馬)
 中村叔平 (長野)
 山田藤助 (山口)
 松本肇 (島根)
 松田宗一 (宮崎)
 安田政治郎 (東京)

石川二三 (山口)
 眞鍋良三 (香川)
 清水家助 (兵庫)
 杉田善次 (東京)

明治三十八年七月第六回卒業生 (十九人)

岩切鳳一 (鹿児島)
 井上正直 (愛媛)
 石黒覺太郎 (東京)
 西尾宣次郎 (大阪)
 小川吉雄 (新潟)
 兼弘正雄 (鹿児島)
 田所正躬 (東京)

中富敏夫 (福岡)
 奈古屋英馬 (山口)
 南部實吉 (高知)
 宇都宮浩 (大分)
 上田義雄 (大分)
 町田長種 (静岡)
 藤本治郎 (愛媛)

淺野寅次郎 (岐阜)
 吉良馬吾 (高知)
 穴戸千穎 (愛媛)
 城谷默 (東京)
 仙波重義 (福岡)

選科修了生 (三人)

工藤慧達 (熊本)
 志村義夫 (群馬)

明治三十九年七月第七回卒業生 (三十人)

林修一郎 (愛知)
 西村晃一 (山口)
 細江逸記 (三重)
 小倉二郎 (千葉)
 小倉鎬 (島根)

岡健夫 (山口)
 岡野小太郎 (茨城)
 謙田敬四郎 (福島)
 加勢任三 (東京)
 横地良吉 (東京)

高橋勝三 (岡山)
 坪井新次郎 (愛媛)
 月岡豪 (岡山)
 ×中澤藤甫 (長野)
 久保尊徳 (東京)

本校卒業生 英語學科

矢野 晋 (愛媛)
 阿比留 棗 (長崎)
 湯下 惣一 (東京)
 安永 邦弘 (愛媛)
 佐々木 賢治 (大阪)
 宮治 金藏 (神奈川)
 町原 重光 (福井)
 岸 衛 (東京)
 三俣 一郎 (群馬)
 小松崎 茂 (茨城)
 來住 順藏 (兵庫)
 設樂 眞太郎 (埼玉)
 桑折 鐵次郎 (愛媛)
 岸本 光治 (大阪)
 平田 正 (鹿児島)

明治四十年三月第八回卒業生 (三十人)

石川 清七 (愛知)
 高橋 清三郎 (静岡)
 松本 晋二 (岡山)
 苦米地 英俊 (長野)
 高田 春作 (富山)
 河野 孝一 (長野)
 大杉 延雄 (静岡)
 田中 篤 (山形)
 河野 三通士 (大分)
 渡邊 薫 (大分)
 根本 儀太郎 (秋田)
 生明 梅三郎 (群馬)
 梶川 義隆 (東京)
 中村 慎吾 (山形)
 佐伯 益豊 (山口)
 金子 猪八郎 (栃木)
 桑原 萬之丞 (群馬)
 篠原 増之助 (東京)
 吉永 鐵次 (熊本)
 山本 民之助 (東京)
 篠原 増之助 (東京)
 吉本 正秋 (北海道)
 山元 章次郎 (滋賀)
 篠原 増之助 (東京)
 谷 壯藏 (山形)
 松澤 有治 (佐賀)
 鈴木 清八 (福島)

明治四十一年三月第九回卒業生 (二十三人)

岩崎 實藏 (鳥取)
 槽岡 徹 (山形)
 赤坂 芳次 (埼玉)
 鳥羽 多助 (佐賀)
 上田 健司 (鹿児島)
 早乙女 毅 (栃木)
 永見 聖光 (茨城)
 安水 虎次 (兵庫)
 佐久間 經也 (山梨)
 太田 眞輔 (鳥取)
 山田 篤郎 (島根)
 喜多尾 秀二 (京都)
 岡部 慎一郎 (福岡)
 藤井 源吉 (廣島)
 岸田 英治 (三重)
 高久 甚之助 (三重)
 近藤 春和 (愛媛)
 結城 喜三 (福岡)
 多賀 義雄 (岐阜)
 小林 廣正 (長野)
 三宅 永之助 (京都)
 蘭田 顯善 (山形)
 合田 亨 (新潟)

明治四十二年三月第十回卒業生 (二十八人)

岩城 義三郎 (岡山)
 春日 秀能 (東京)
 手塚 泰雄 (福岡)
 磯 矢剛 (三重)
 玉手 信二郎 (大阪)
 赤間 徳壽 (富山)
 生島 知二 (東京)
 中谷 義一郎 (大阪)
 齋藤 義雄 (東京)
 西脇 保治 (新潟)
 宇野 井忠清 (千葉)
 佐藤 權太郎 (新潟)
 戸田 三郎 (石川)
 宇野 勇彦 (徳島)
 佐藤 強介 (秋田)
 尾池 虎三郎 (香川)
 山田 喜代助 (宮城)
 木畑 浩四郎 (岡山)
 大村 秀太郎 (東京)
 山口 一郎 (新潟)
 岸 焄俊彦 (茨城)
 若松 清太郎 (鳥取)
 馬淵 芳樹 (岐阜)
 宮野 恭造 (茨城)
 片山 彦四郎 (福岡)
 藤野 武男 (長野)
 御手洗 諫一 (愛媛)

三島和介 (東京)

明治四十三年三月第十一回卒業生 (二十三人)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 伊藤滋雄 (長野) | 川島廉吉 (東京) | 青柳亮 (島根) |
| 飯田彌太郎 (東京) | 片山俊 (長野) | 安部太郎 (福島) |
| 長谷川元吉 (島根) | 吉田晋作 (三重) | 澤西徹 (佐賀) |
| 西虎夫 (岡山) | 高野貢 (茨城) | 齋藤治三郎 (千葉) |
| 小野直一 (山口) | 玉垣一男 (德島) | 篠原新次郎 (東京) |
| 小野田文助 (愛知) | 氏家重一 (香川) | 須川綾雄 (静岡) |
| 若山芳重 (愛知) | 柳澤柳太郎 (長野) | 須田耕一 (長野) |
| 渡邊平次郎 (島根) | 後藤半七郎 (山形) | |
- 明治四十四年三月第十二回卒業生 (三十二人)
- | | | |
|------------|------------|-------------|
| 射手一三 (長野) | 戸田勳 (廣島) | 立川卓男 (廣島) |
| 今井要一郎 (群馬) | 奥島太一郎 (東京) | 種子島季彦 (鹿児島) |
| 今村方四郎 (長野) | 渡邊修吾 (東京) | 武山清市 (岐阜) |
| 池島弘作 (新潟) | 河原正路 (長野) | 中村克 (千葉) |
| 石田憲次 (山口) | 河原慎男 (東京) | 村松金作 (静岡) |
| 石田善太郎 (東京) | 田邊恒 (宮城) | 内田直 (岩手) |
| 石光助一 (山口) | 田中饒 (東京) | 矢吹義享 (栃木) |

山脇義太郎 (兵庫)
 山本勘一 (岡山)
 山本孝太郎 (和歌山)
 松井良平 (宮崎)

松岡末吉 (東京)
 藤田美廣 (宮城)
 小林嘉七 (栃木)
 小林勇藏 (長野)

郷敏 (栃木)
 齋藤春雄 (北海道)
 岸田豊吉 (東京)

佛語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (三人)

二宮猪象 (香川) 瀧村立太郎 (東京)

宮崎幹太郎 (大阪)

明治三十四年七月第二回卒業生 (九人)

巖谷春生 (滋賀) 武村元藏 (東京)
尾花繁太郎 (徳島) 鶴來和之 (東京)
加藤秀郷 (三重) 成島朝一 (静岡)

松本俊造 (千葉)
兒玉彌彦 (鹿兒島)
平岡七郎 (静岡)

明治三十五年七月第三回卒業生 (十七人)

石谷貴矩 (三重) 若林耿介 (茨城)
井上彌二郎 (東京) 吉田 衡 (福井)
西山徳太郎 (東京) 本間利雄 (沖繩)
小田精吉 (東京) 松平正次 (千葉)
笈田敏野 (福井) 矢橋春造 (京都)
×中川豆介 (東京) 松島 榮 (静岡)

小島文八 (静岡)
淺野千里 (長崎)
佐藤武則 (長野)
鹽山要正 (東京)
守 經雄 (東京)

明治三十六年七月第四回卒業生 (九人)

池田政雄 (鹿兒島)
大内敬一 (茨城)
田久保昌雄 (熊本)

山崎 一郎 (青森)
高橋 喬一 (和歌山)
齋藤武夫 (岡山)

喜多川 清 (東京)
島田勝之助 (東京)
×尾藤龍雄 (愛知)

明治三十七年七月第五回卒業生 (十三人)

西村潤藏 (神奈川)
道明英次 (東京)
河合義一 (兵庫)
若月覆次郎 (茨城)
脇阪孝之助 (東京)

川治庄太郎 (福井)
吉田 忠哉 (神奈川)
山口鏢次郎 (新潟)
小林林次郎 (群馬)
安藤惟一 (東京)

水澤 定 (東京)
×下川正治 (東京)
北島耕造 (静岡)

明治三十八年七月第六回卒業生 (十三人)

土居晴見 (高知)
龜割陸男 (長野)
館村甚治 (石川)
高木秀雄 (佐賀)
田口作郎 (秋田)

田 島 清 (高知)
町田梓樓 (長野)
小枝指健造 (岩手)
青木英彦 (東京)
吉良歌吉 (高知)

塚元文彌 (埼玉)
平瀬保之助 (福井)
森田安吉 (香川)

選科修了生 (三人)

本校卒業生 佛語學科

大杉 榮 (愛知) 吉岡 七郎 (東京) 白川 資長 (東京)

明治三十九年七月第七回卒業生 (十四人)

今井 富次 (富山) ×穂積 敬彦 (徳島) 松 丸 健 (東京)
 原 達 (岩手) 大久保 純 (東京) 古川 敬次 (佐賀)
 島山 忠 (兵庫) 太原 甫吉 (静岡) 元岡 滿 (大分)
 林 庸三 (東京) 中村 敬一 (岡山) 安 戸 乙彦 (山口)
 西川 亮一 (東京) 上田 村次郎 (愛媛)

選科修了生 (二人)

鈴木 蒔 (福島)

明治四十年三月第八回卒業生 (二十人)

犬飼 伸 (東京) ×高島 利男 (香川) 山成 勉之進 (東京)
 岩動 孝久 (岩手) 成毛 堅之助 (千葉) 山村 次郎 (新潟)
 服部 修徳 (熊本) 中根 信尾 (東京) 町 田 均 (群馬)
 長谷川 國三 (神奈川) 長崎 春義 (鹿児島) 青木 佐一郎 (福岡)
 蜷川 要 (東京) 内山 茂樹 (長野) 櫻澤 忠四郎 (埼玉)
 谷口 正敏 (兵庫) 山根 虎若 (山口) 左近 允景武 (東京)

喜多山 松之助 (福井) 毛利 由一 (東京)

選科修了生 (二人)

大西 重太郎 (石川) 鷺 月 清 (千葉)

明治四十一年三月第九回卒業生 (十五人)

板倉 貞男 (千葉) 小倉 定爾 (鹿児島) 安藤 袈裟一 (佐賀)
 今泉 清亮 (福岡) 高澤 貞義 (富山) 佐々木 信造 (京都)
 西尾 秀吉 (神奈川) 黒坂 達三 (兵庫) 佐波 鐵二 (東京)
 堀田 正和 (東京) 山下 善次 (佐賀) 木村 徳太郎 (東京)
 ×富島 衛士 (熊本) 船橋 周市 (愛知) 清水 忠三郎 (大阪)

明治四十二年三月第十回卒業生 (二十人)

猪飼 國道 (長野) 多川 格三 (大阪) 前田 元四郎 (青森)
 井出 徳夫 (長野) 高木 達也 (群馬) 増田 俊雄 (岐阜)
 原 博雄 (山口) 高木 弘 (鹿児島) 益谷 秀次 (石川)
 萩田 傳三 (群馬) 田邊 淺次郎 (東京) 近藤 健三郎 (東京)
 賀來 俊一 (滋賀) 永井 房太郎 (東京) 寺島 次郎 (東京)
 横山 承二 (東京) ×長山 俊雄 (茨城) 篠 憲三 (東京)

本校卒業生 佛語學科

茂木楠次郎 (群馬) 菅 浪 孚 (東京)

選科修了生 (一人)

中川好助 (静岡) 明治四十三年三月第十一回卒業生 (十八人)

井上三郎 (山口)	小川隆三 (石川)	山本清治 (東京)
齋藤次郎 (秋田)	大谷 勇 (新潟)	松田重則 (奈良)
池内 緝 (東京)	和田富雄 (高知)	藤井善繼 (東京)
丹羽全權 (富山)	川口盛作 (千葉)	福本義亮 (山口)
西澤光英 (東京)	田中龍吉 (岐阜)	木村英二 (大阪)
戸田阿喜太 (岡山)	名和田政一 (山口)	宮地光雄 (高知)

明治四十四年三月第十二回卒業生 (十四人)

伊藤憲三 (東京)	大森 鑛三 (愛知)	松尾 義雄 (山形)
原田良夫 (徳島)	奥田茂隆 (高知)	松 尾 潔 (兵庫)
西島彌太郎 (山口)	和田善治 (山口)	佐藤 義松 (島根)
太田良英 (福井)	竹本勇夫 (福島)	鈴木利平 (徳島)
大曲誠之 (長崎)	山下芳郎 (岐阜)	

獨 語 學 科

明治三十三年七月第一回卒業生 (七人)

井手岩吉 (佐賀)	上村哲三 (鹿児島)	弓削久兵衛 (千葉)
田代光雄 (東京)	久野英一 (愛媛)	
中村達雄 (山口)	安樂直治 (鹿児島)	

明治三十四年七月第二回卒業生 (五人)

磯山 健 (茨城)	太田爲治 (京都)	佐々木常二郎 (宮城)
原村五郎 (東京)	丸 勝藏 (千葉)	

明治三十五年七月第三回卒業生 (九人)

井門荒三郎 (熊本)	笠原正樹 (長崎)	蘆塚利伸 (長崎)
丹羽 弘 (愛知)	田中正之 (東京)	青山民子雄 (東京)
堀田正次 (宮城)	山本開作 (神奈川)	齋木延次郎 (廣島)

明治三十六年七月第四回卒業生 (十五人)

稲坂秀松 (石川)	富 井 泰 (兵庫)	金井俊英 (長崎)
北條力之助 (静岡)	大槻正人 (東京)	金原三郎 (静岡)

本校卒業生 獨語學科

海江田 虎次郎 (東京)
 武田 爲次 (宮崎)
 中島 龜彦 (東京)
 蟲明嘉源次 (岡山)
 赤尾友三郎 (富山)
 秋元喜久雄 (靜岡)
 早乙女新二 (東京)
 里見 太 (長野)
 ×桐川 攝 (千葉)

明治三十七年七月第五回卒業生 (十一人)

伊藤 英樹 (高知)
 飯島 道脩 (東京)
 西原泉之助 (愛媛)
 大谷 基輔 (東京)
 小笠原昌齋 (山梨)
 渡邊格太郎 (福岡)
 ×谷 與一 (岡山)
 莊 直一 (岡山)
 網島清次郎 (新潟)
 中溝多摩吉 (東京)
 黒塚壽一 (佐賀)

選科修了生 (三人)

武田 久吉 (東京) — 松岡 彦野 (熊本)

明治三十八年七月第六回卒業生 (九人)

塙 信吉 (茨城)
 ×高山 吉 (東京)
 外山 高一 (東京)
 横井 忠吉 (大分)
 ×高 辻 豊 (埼玉)
 竹崎虎惣太 (高知)
 村上 竹藏 (福岡)
 國岡 三樹 (福島)
 鈴木 正武 (福島)
 魚住 清適 (福井)

明治三十九年七月第七回卒業生 (二十六人)

井土剛之介 (福岡)
 ×石倉 一 (千葉)
 飯島省一 (静岡)
 飯田安男 (大阪)
 長谷 敏 (岡山)
 仁木周藏 (新潟)
 富永清人 (熊本)
 奥野七郎 (富山)
 和田 增平 (山口)
 桂 俊真 (東京)
 吉崎 芳男 (神奈川)
 田中 五郎 (廣島)
 高林盛彌 (東京)
 村田 正太 (高知)
 向井 鐵次 (兵庫)
 梅木 旻 (大分)
 山地 英夫 (香川)
 安田 不二麿 (岐阜)
 山内 壽男 (栃木)
 古賀 圓藏 (福岡)
 江塚 秀四郎 (静岡)
 寺田 敏夫 (静岡)
 安立 辰彦 (東京)
 坂本 忠恕 (廣島)
 島田 昌三 (群馬)
 關口 信次 (茨城)

選科修了生 (三人)

野中 太一郎 (新潟) — 藤原 性信 (徳島)

明治四十年三月第八回卒業生 (十三人)

伊丹隆之助 (兵庫)
 石井 禮司 (東京)
 大橋 完一 (埼玉)
 蔭山 次郎 (福井)
 多治見 國豊 (茨城)
 瀧山 轍二 (廣島)
 ×中島 優二 (廣島)
 麥倉 嘉吉 (東京)
 宇賀 彦太郎 (高知)
 新井 重禮 (新潟)
 嶺岸 久治 (宮城)
 南 修三 (兵庫)
 宮家 壽男 (香川)

明治四十一年三月第九回卒業生 (十八人)

石倉善衛 (群馬)	中島愛次 (高知)	渡邊恒次郎 (静岡)
岩根一 (山口)	漆山正二 (新潟)	川瀬政七 (滋賀)
本庄實 (三重)	野口勝市 (佐賀)	高村道利 (東京)
岡田善次郎 (富山)	櫛田民藏 (福島)	深澤輯熙 (山梨)
大場忠 (宮城)	大谷豐顯 (山形)	權田保之助 (東京)
田島重雄 (東京)	大山壽 (秋田)	今野秀輔 (宮城)

選科修了生 (二人)

王佩文 (清國)

明治四十二年第十回卒業生 (十五人)

石澤春雄 (山形)	川南盛利 (東京)	熨斗勝一 (奈良)
林正一 (茨城)	粕谷眞洋 (福井)	山崎篤愿 (福井)
穂積茂 (大分)	谷田重好 (滋賀)	小柳篤二 (新潟)
岡村準一 (山口)	高橋新兵衛 (宮城)	昌忠二 (鹿児島)
川中道 (三重)	高辻達 (香川)	鈴木啓介 (福島)

明治四十三年三月第十一回卒業生 (十五人)

市瀬齊 (長野)	中島精一 (東京)	荒川充雄 (熊本)
徳森武雄 (三重)	信國武尙 (山口)	秋野源次郎 (神奈川)
奥野親吉 (東京)	久保田貞宏 (長野)	木戸信次郎 (群馬)
鹿島正雄 (東京)	熊野修造 (山口)	三好嘉平 (香川)
中澤英二郎 (和歌山)	江阪幸次郎 (東京)	柴田勤次 (新潟)

選科修了生 (二人)

李維翰 (清國) 倉石眞三 (長野)

明治四十四年三月第十二回卒業生 (二十六人)

原田漸 (東京)	竹越英一 (新潟)	新井精司 (東京)
八田新一郎 (三重)	鍋島直繩 (佐賀)	齋藤正次 (東京)
戸ヶ崎一男 (埼玉)	中村太郎 (福井)	坂路英知 (福島)
岡松茂 (東京)	中島眞一 (愛媛)	菊地勝雄 (茨城)
奥川元一 (大分)	村田廣義 (大阪)	道部勝順 (千葉)
渡邊政吉 (岐阜)	山田俊治 (山口)	光島靖雄 (愛知)
加來高夫 (大分)	小林胖 (東京)	志摩源三 (神奈川)
柿原貞 (福岡)	阿蘇助男 (熊本)	鹿野博史 (宮城)

本校卒業生 獨語學科

比企員雄 (愛媛) — 關 虎之介 (茨城)

露 語 學 科

明治三十三年七月第一回卒業生 (六人)

田 中 乙 (福井) 山口爲太郎 (愛知)
藤藤三平 (埼玉) 古澤幸吉 (北海道)

秋元義親 (東京)
鈴木尙三 (東京)

明治三十四年七月第二回卒業生 (十人)

井田孝平 (東京) 長谷川作次 (石川)
飯田 愿 (宮城) 河村國松 (岐阜)
五十嵐清 (岡山) 菅野金三郎 (佐賀)
和泉良之助 (茨城) 左藤寶五郎 (神奈川)

島田嘉一郎 (埼玉)
鈴木覺太郎 (宮崎)

明治三十五年七月第三回卒業生 (七人)

市川寅次郎 (福岡) 村田乙三郎 (東京)
池田德太郎 (東京) 久網小治郎 (愛知)
竹内秀三 (長崎) 股野貫之 (兵庫)

平塚若麿 (茨城)

明治三十六年七月第四回卒業生 (十七人)

伊崎千秋 (岐阜) 羽中田諄策 (山梨)

緒方正肅 (熊本)

本校卒業生 露語學科

川角忠雄 (愛知)
山下義雄 (山梨)
八木明昌 (東京)
松田衛 (大分)
藤井孝八郎 (栃木)

剛崎虎雄 (熊本)
木暮謙二 (群馬)
淺羽卿 (東京)
鮎貝冬雄 (長野)
櫻井又男 (熊本)

水野島次郎 (愛知)
清水三三 (山梨)
鈴木相之助 (福井)
鈴木新吉 (東京)

選科修了生 (一人)

竹田彌左衛門 (奈良)

明治三十七年七月第五回卒業生 (十三人)

石井良直 (北海道)
飯泉孫次郎 (茨城)
大江久太郎 (香川)
竹津樸 (石川)
長澤貞 (栃木)

植田一夫 (神奈川)
熊谷直吉 (秋田)
山岡光太郎 (廣島)
牧野左馬三 (大分)
兒玉豐彦 (鹿児島)

栗原信男 (東京)
佐和彌一郎 (群馬)
北島常晴 (東京)

選科修了生 (二人)

大倉勳夫 (東京)

神谷薫 (北海道)

明治三十七年十一月第六回卒業生 (三人)

家村盛吉 (鹿児島)

白河太司 (新潟)

諸岡三郎 (長崎)

明治三十七年十二月第六回卒業生 (十八人)

十時惟親 (福島)
加藤明 (高知)
谷村清兵衛 (富山)
中尾秀男 (東京)
浪江良平 (埼玉)
黒柳良之助 (東京)

藤平文藏 (岩手)
藤井董 (愛媛)
有門勇平 (福岡)
佐藤寛 (福井)
酒井醇 (静岡)
木村恪 (愛知)

木下蕃 (廣島)
三ヶ尻邦彦 (大分)
城子悌二郎 (長野)
島田正靖 (高知)
平田稔 (和歌山)
河原信一 (廣島)

選科修了生 (二人)

原田三平 (山口) 野村明 (北海道)

明治三十八年七月第六回卒業生 (三人)

高畑誠一 (香川) 新井三郎 (群馬)

酒井泉 (佐賀)

選科修了生 (一人)

倉岡義三 (北海道)

明治三十九年七月第七回卒業生 (三十六人)

本校卒業生 露語學科

伊丹正雄 (熊本)	竹内真道 (北海道)	藤井十四三 (山口)
大井包高 (長野)	辻藤頼吉 (愛知)	榎原延吉 (東京)
小川基一 (千葉)	内藤彌太郎 (東京)	甘利四郎 (長野)
加藤潔 (千葉)	中村彌太郎 (東京)	荒井孫助 (富山)
川上秀雄 (廣島)	長原顯證 (石川)	滿田保太郎 (山梨)
川原鷹助 (鹿兒島)	上田熊生 (大分)	島田元麿 (東京)
吉田榮 (福井)	野口一三郎 (新潟)	島田滋 (高知)
高島榮作 (茨城)	郡司智麿 (北海道)	鈴木鄰吾 (静岡)
檀野貞記 (長崎)	前田茂穂 (福井)	
選科修了生 (六人)		
岡村敬三 (熊本)	村上常郎 (宮城)	三坂繁雄 (福岡)
樺山猛一 (鹿兒島)	淺野高興 (東京)	安村省三 (岩手)
明治四十年三月第八回卒業生 (二十一人)		
伊藤信一 (三重)	橋口住又 (鹿兒島)	高谷弘 (青森)
岩崎直砥 (長野)	小笠原儀雄 (山口)	内藤政次 (新潟)
花俣幸昌 (埼玉)	川谷幸左衛門 (島根)	永岡繁造 (長崎)

中野新吾 (大分)	藤井完次 (新潟)	手塚繁也 (山梨)
長澤泰三 (東京)	布施勝治 (新潟)	天野林之助 (東京)
九谷常恩 (福井)	小柳雪生 (熊本)	秋野中一 (長野)
山田實 (山形)	小松虎喜 (高知)	佐藤有二 (兵庫)
選科修了生 (二人)		
關三郎 (青森)		
明治四十一年三月第九回卒業生 (十九人)		
池田益宣 (福岡)	高索榮之助 (福島)	松井勳 (静岡)
池田定吉 (奈良)	高橋守義 (新潟)	古川洪 (千葉)
池田福松 (大阪)	高橋真吉 (新潟)	北川鹿藏 (三重)
穂積永頼 (群馬)	梨木祐臣 (京都)	溝部壽六 (大分)
戸村佃一 (山口)	野村徹 (東京)	水谷可什 (愛知)
柏木孤矢郎 (三重)	山内恭治 (福島)	
田中文一郎 (長野)	矢澤裕也 (東京)	
選科修了生 (二人)		
加藤真之助 (神奈川)	長尾博 (兵庫)	

本校卒業生 露語學科

明治四十二年三月第十回卒業生 (十九人)

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 石田常麿 (宮城) | 沼野鐘太郎 (愛知) | 寺田太三郎 (石川) |
| 石田二郎 (埼玉) | 岡本光三 (北海道) | 佐和山彌六 (神奈川) |
| 原一郎 (東京) | 高見三吉 (島根) | 三輪寛次 (大阪) |
| 長谷川潔 (埼玉) | 園田一朗 (熊本) | 關根齊一 (埼玉) |
| 鳥居肇三 (岐阜) | 黛正見 (群馬) | 關根米三郎 (神奈川) |
| 戸田利三郎 (青森) | 深野剛 (福岡) | |
| 千葉市之亮 (東京) | 小松靜 (宮城) | |
| 余大鵬 (清國) | 竹村廣吉 (北海道) | 矢部榮吉 (神奈川) |
| 伊藤留吉 (三重) | 長澤武男 (山梨) | 木倉喜代治 (千葉) |
| 市川保一 (東京) | 矢部力雄 (群馬) | 宮内茂美 (高知) |
| ×本戸不二雄 (福岡) | 小林九郎 (長崎) | 島崎愛之助 (神奈川) |
| 俵謹五郎 (茨城) | 阿部金藏 (青森) | 杉本正助 (岩手) |
| 竹内仲夫 (三重) | 天草與一 (東京) | 菅谷進 (千葉) |
| 津田富藏 (茨城) | 佐藤健一 (大分) | |

明治四十三年三月第十一回卒業生 (十七人)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 伊藤敏三郎 (愛知) | 中村俊藏 (神奈川) | 朝倉虎次郎 (富山) |
| 岩淵澄夫 (千葉) | 永原茂樹 (大阪) | 水野路加 (東京) |
| 河村正一 (山口) | 村岡二郎 (宮城) | 宮村時一郎 (東京) |
| 片岡良寅 (千葉) | 野坂亮太郎 (青森) | 宮城島季應 (東京) |
| 吉成雄治 (秋田) | 山口大 (東京) | 鹽井爲三 (東京) |
| 岩田秀雄 (東京) | 選科修了生 (二名) | |

明治四十四年三月第十二回卒業生 (十五人)

伊語學科

明治三十五年七月第一回卒業生 (四人)

永井義麿 (神奈川) 小林武麿 (東京)
宇野鐵二 (愛知) 栗田三吾 (東京)

明治三十七年七月第二回卒業生 (四人)

石田善太郎 (東京) 吉田彌邦 (德島)
濱口光雄 (三重) 有島壬生馬 (東京)

明治三十八年七月第三回卒業生 (七人)

磐瀨三郎 (東京) 大平善太郎 (三重)
堀武三 (京都) ×中島胤男 (天分)
豐島昌 (茨城) 長岡乙彦 (東京)

天雄 (東京)

明治三十九年七月第四回卒業生 (三人)

向原喜祝 (鹿兒島) 山内朝吉 (福岡)

松竝聖郎 (滋賀)

明治四十年三月第五回卒業生 (四人)

田中忠雄 (佐賀) 天笠常太郎 (三重)
楠川保 (山形) 佐藤運三 (秋田)

明治四十二年三月第六回卒業生 (六人)

春田安三郎 (東京) 鹿野久市郎 (鳥取)
太田清彦 (東京) 山田安猷 (兵庫)

深澤利三郎 (東京)
木戸俊夫 (東京)

明治四十三年三月第七回卒業生 (五人)

二藤真 (東京) 奥田誠道 (京都)
丹羽與吉 (東京) 高田彰 (天分)

坂本常雄 (長野)

明治四十四年三月第八回卒業生 (三人)

原基一郎 (静岡) 馬場庄三郎 (兵庫)

關口昇三 (埼玉)

西語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (三人)

伊東信一 (愛知) 金澤一郎 (兵庫)

明治三十四年七月第二回卒業生 (五人)

桑原真義 (熊本) 丸井三次郎 (和歌山)
松木賢吉 (高知) 平松輝太郎 (三重)

明治三十五年七月第三回卒業生 (六人)

波佐谷慶發 (北海道) 渡邊三彦 (栃木)
岡田庫次 (岐阜) 四枝綱吉 (鹿児島)

明治三十七年七月第四回卒業生 (十人)

飯野佐一 (愛知) 赤塚啓一 (新潟)
伊東正雄 (大分) 木村儀一郎 (新潟)
秦正雄 (三重) 渡邊周三郎 (栃木)
福島末光 (三重) 永原勉 (東京)

波多野元治 (兵庫)

森醇一 (佐賀)

竹下末吉 (島根)
南喬一 (兵庫)

日野爲三郎 (廣島)
森米八 (長崎)

明治三十八年七月第五回卒業生 (八人)

長谷川長和 (茨城) 辻駒一郎 (佐賀)
春日廓明 (東京) 中村清 (徳島)
田中勘四郎 (愛知) 福田卯吉 (徳島)

佐藤豊司 (群馬)
坂上良太郎 (和歌山)

選科修了生 (二人)

半田虎雄 (東京)

明治三十九年七月第六回卒業生 (十三人)

伊東頼 (三重) 草間功 (茨城)
原口辰次郎 (佐賀) 益子三郎 (茨城)
菊部新平 (茨城) 神田虎雄 (山口)
塚本金治 (埼玉) 小林代次郎 (東京)
中島東 (熊本) 佐藤淨兒 (千葉)

宮部次郎 (東京)
澁川義雄 (佐賀)
杉山三五郎 (廣島)

明治四十年三月第七回卒業生 (十九人)

馬場稱徳 (長野) 岡雷平 (長野)
沼田宗 (宮城) 岡田鉦治郎 (愛知)

渡邊孝 (福島)
武田辨藏 (埼玉)

本校卒業生 西語學科

村上直吉 (鹿兒島)	近藤懋 (愛媛)	弘中強介 (山口)
松浦泰一 (靜岡)	海老名毅介 (山口)	守屋節 (神奈川)
牧野肅 (長野)	手塚保三郎 (宮城)	菅波新一 (石川)
増田耕作 (埼玉)	×首藤昇 (大分)	
小山義龜 (福岡)	島田剛 (茨城)	
明治四十二年三月第八回卒業生 (十四人)		
橋本覺次郎 (東京)	永田寛定 (東京)	芝崎彌額爾 (東京)
沼田豊吉 (富山)	内山順昌 (長崎)	遠藤庄藏 (東京)
神谷徳重 (愛知)	×松本儀十郎 (栃木)	諸橋宏 (東京)
高雄得一 (長崎)	藤岡清七郎 (富山)	茂木良平 (栃木)
田川敬喜 (東京)	小松規一 (静岡)	
明治四十三年三月第九回卒業生 (十二人)		
石黒常吉 (群馬)	村岡玄 (群馬)	阿保徳哉 (香森)
長谷川義直 (香川)	牛尾正雄 (兵庫)	佐幸田兼藏 (京都)
濱田二男 (宮城)	山田中 (栃木)	齋藤利世 (山形)
中瀬真一 (岡山)	山口正之 (長崎)	木村常純 (奈良)
明治四十四年三月第十回卒業生 (九人)		

石山重雄 (山口)	田村浩 (新潟)	水野勉 (新潟)
馬場留次郎 (静岡)	垂水六雄 (大分)	四ノ宮安彦 (静岡)
大地儀之亮 (兵庫)	小林哲之助 (新潟)	望月重治 (静岡)

清語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (九人)

岡本正文 (愛媛)
河崎武 (熊本)
上田三德 (東京)

寺本寅彦 (熊本)
齋藤勝治 (佐賀)
佐藤新太郎 (山形)

宮内元 (千葉)
滿永鐵太 (熊本)
島田翰 (東京)

明治三十四年七月第二回卒業生 (十一人)

岩原大三郎 (東京)
池田良榮 (高知)
奥津銀平 (群馬)
糟谷好助 (埼玉)

蔭山石五郎 (徳島)
曾谷健吾 (廣島)
神谷武馬 (長崎)
船橋甚兵衛 (兵庫)

飯田邦彦 (佐賀)
阿部生居造 (群馬)
青柳義作 (新潟)

明治三十五年七月第三回卒業生 (八人)

石垣光義 (東京)
林要五郎 (北海道)
堀田延千代 (大阪)

大部八洲夫 (茨城)
高鳥長治 (福井)
増井茂松 (三重)

松村孫一 (埼玉)
松本土農夫 (福井)

明治三十六年七月第四回卒業生 (九人)

竹内脩吉 (三重)
梅村美誠 (神奈川)
宇佐美右之 (東京)

寺田由衛 (愛媛)
佐藤敏治 (東京)
菊川龜次郎 (熊本)

倉澤保 (東京)
八木直藏 (静岡)
諸岡三郎 (佐賀)

明治三十七年七月第五回卒業生 (十八人)

×稻葉要作 (静岡)
品治貞 (香川)
高江正庸 (鹿児島)
×竹内午郎 (東京)
中村準輔 (山口)
×内藤惟行 (愛媛)

山崎淳一郎 (佐賀)
山田吾郎 (静岡)
山元敬二 (鹿児島)
小網仁三郎 (群馬)
秋山昱禧 (山梨)
里見庸三 (栃木)

瀧岡動一 (佐賀)
志岐吉彦 (沖繩)
×澁谷樵造 (高知)
山瀬肇 (鳥取)
樋口勝 (三重)
鈴木準繩 (福井)

明治三十八年七月第六回卒業生 (二十七人)

長谷理教 (山形)
遠山猛雄 (茨城)
近田美喜太郎 (愛知)
小山田廣志 (栃木)
岡村節 (鳥取)
小川文之助 (佐賀)

神谷衡平 (東京)
加美山壽 (宮城)
太宰文平 (愛媛)
中島久雄 (佐賀)
浦保壽 (高知)
浦瀬豊次郎 (長崎)

野村常治 (宮城)
柳谷鐵也 (秋田)
甲賀三郎 (静岡)
小松光治 (大阪)
綾部徳次郎 (茨城)
×齋藤文雄 (新潟)

本校卒業生 清語學科

百七

齋藤幸太郎 (宮崎) 三宅芳雄 (熊本)
 佐久間鐵次郎 (熊本) 宮越健太郎 (新潟)
 木川加一 (廣島) 東海林光治 (神奈川)
 清水豐一 (長野)
 軸丸卓爾 (福岡)
 須古純造 (佐賀)

選科修了生 (四人)

茅野房次郎 (千葉) 上野政治 (栃木)
 吉増宏 (神奈川) 鈴木重彦 (鹿児島)

明治三十九年七月第七回卒業生 (二十一人)

井原儀平 (長野) 東條儀一 (東京)
 生田耕 (新潟) 友田久雄 (兵庫)
 早川正雄 (長野) 川井光太郎 (千葉)
 服部邦久 (長崎) 加藤節 (茨城)
 西川有味三 (熊本) 中城正亮 (高知)
 西尾廣司 (奈良) 中村梅吉 (高知)
 本多辰三郎 (東京) 山崎重次 (島根)
 益田謙吉 (東京)
 松岡貞良 (兵庫)
 松本隆助 (埼玉)
 小沼信造 (東京)
 由月義一 (兵庫)
 三瓶守一 (宮城)
 鈴木巳之作 (栃木)

選科修了生 (四人)

穂積秀範 (三重) 種子田實 (鹿児島)

成澤直亮 (長野)

三橋政明 (北海道)

明治四十年三月第八回卒業生 (二十七人)

伊原平之助 (島根) 吉田舜 (兵庫)
 泉田寧 (福島) 吉持俊道 (鳥取)
 猪俣恒次郎 (東京) 高木潔 (東京)
 春田真一 (徳島) 鶴見次世 (長野)
 遠山亮吉 (長野) 永原正雄 (静岡)
 長誠一 (福島) 村井舜造 (山口)
 川村小三郎 (宮城) 上杉謹一 (東京)
 上谷庫平 (兵庫) 山田清 (東京)
 吉雄豊 (大分) 藤谷三鷹 (滋賀)
 後藤愛 (東京)
 近藤祿之甫 (山梨)
 相良經豊 (鹿児島)
 清野惣吉 (新潟)
 山崎大八 (東京)
 島田千代治 (山梨)
 廣本光治 (兵庫)
 平田恒太郎 (東京)
 杉浦直吉 (東京)

選科修了生 (三人)

濱田幸之介 (鹿児島) 藤澤悌二郎 (石川) 有南宇兵衛 (和歌山)

明治四十一年三月第九回卒業生 (十七人)

林政藏 (大阪) 袖山貞雄 (島根) 久志本鐵之祐 (三重)
 金丸六也 (宮崎) 津村精太郎 (福岡) 藤森勇 (長野)

本校卒業生 清語學科

小林嘉貞 (山梨)
 小林陽之介 (東京)
 小谷網吉 (愛知)
 阿部善吉 (宮城)

木村愛香 (東京)
 水谷岩三郎 (新潟)
 酒井清兵衛 (岐阜)
 芝文雄 (愛媛)

平田欣爾 (神奈川)
 守屋禮三 (岡山)
 杉秀夫 (福岡)

明治四十二年三月第十回卒業生 (二十人)

伊藤基光 (愛知)
 本間光民 (新潟)
 大庭孝道 (鹿兒島)
 小川逸郎 (東京)
 小澤善兵衛 (福岡)
 河喜多英二 (福岡)
 川保義重 (群馬)

柏崎郁三郎 (栃木)
 吉村芳一 (山口)
 高橋源二 (福岡)
 副島國雄 (長崎)
 長畑桂藏 (福岡)
 黒川直枝 (島根)
 倉田誠一郎 (福岡)

山口碩平 (愛知)
 藤澤正雄 (石川)
 寺田業也 (新潟)
 荒井永作 (神奈川)
 佐藤文兒 (宮城)
 白川功 (長野)

明治四十三年三月第十一回卒業生 (二十四人)

飯塚千代 (茨城)
 石堂重德 (滋賀)
 西村雅義 (愛知)
 大塚彌 (茨城)

大鹽忠夫 (栃木)
 渡邊德太 (熊本)
 渡邊龜之助 (静岡)
 渡邊昂吾 (千葉)

渡部誠 (島根)
 門屋誠 (山形)
 高橋隆司 (千葉)
 高木銚鋪 (愛知)

武田秀三 (高知)
 中村常彦 (茨城)
 中野高一 (佐賀)
 梅宮源一 (福島)

納富準一 (佐賀)
 古屋諦道 (福岡)
 近藤亮 (東京)
 天津莊一 (東京)

安藤千代吉 (千葉)
 佐倉毅一 (東京)
 重田金輔 (山口)
 森本滋枝 (鳥取)

選科修了生 (三人)

長谷川賢 (茨城)
 上野賢一 (長崎)

明治四十四年三月第十二回卒業生 (二十三人)

五十嵐禎三 (新潟)
 小野澤三郎 (静岡)
 大地亮平 (千葉)
 加藤鎌三郎 (愛知)
 海保文吉 (千葉)
 田村愛 (鳥取)
 高橋四郎 (福岡)
 高田良助 (東京)

高野猛 (茨城)
 玉置萬壽二 (和歌山)
 土屋彦俊 (千葉)
 竝木武雄 (北海道)
 矢野藤助 (栃木)
 遠藤憲治郎 (三重)
 齋藤仁吉 (福島)
 齋藤英一 (長崎)

齋藤申七 (宮城)
 宮島鹿雄 (佐賀)
 清水龜之助 (三重)
 茂申元次 (栃木)
 杉浦胤治 (愛知)
 杉山大吉 (静岡)
 住吉真人 (福島)

選科修了生 (二人)

本校卒業生 清語學科

朝鮮語學科

明治三十三年七月第一回卒業生(三人)

本田 存(東京) ×重嶺 一祐(山口)

山口有信(愛知)

明治三十四年七月第二回卒業生(四人)

西田 禎一(大分) 天野雄之助(滋賀)

加藤勝之助(愛知) 江崎 精一(愛知)

明治三十五年七月第三回卒業生(九人)

伊東 四郎(東京) ×多田 謙三(長野)

×小野 雄志(岡山) 國方 章二(香川)

樫村 武雄(茨城) 山本 恒太郎(東京)

選科修了生(一人)

上田 安次郎(京都)

明治三十六年七月第四回卒業生(二人)

藤 戸 計 太(長崎)

福原 資孝(栃木)
秋吉 英三(東京)
木下 蕃(福井)

明治三十七年七月第五回卒業生 (三人)

本多寛三 (福井)

河野小七郎 (佐賀)

天谷操 (東京)

明治三十八年二月第六回卒業生 (六人)

堀江三郎 (佐賀)

曲主馬 (福岡)

岸本徳三郎 (兵庫)

明治三十八年六月第六回卒業生 (三人)

天海良之 (埼玉)

武間卓一 (兵庫)

末永健一 (東京)

明治三十八年七月第六回卒業生 (三人)

村上安造 (東京)

近藤信一 (千葉)

渡邊倉藏 (福島)

選科修了生 (二人)

中島直吉 (静岡)

明治三十九年七月第七回卒業生 (十二人)

岩倉一 (宮崎)

岡崎進 (高知)

松尾辰一 (佐賀)

選科修了生 (二人)

井手貞吉 (福岡)

大久保清 (静岡)

相川靈瑞 (石川)

明治四十年三月第八回卒業生 (十六人)

堀佐太郎 (大阪)

和田喜一郎 (京都)

森山静造 (東京)

遠山佑吉 (東京)

玉木良 (山梨)

須永茂平 (栃木)

石橋義雄 (神奈川)

市川安之進 (三重)

高木國則 (茨城)

青山武男 (群馬)

大和田矯 (宮城)

武原周之助 (神奈川)

赤司勳一 (佐賀)

加藤顯一 (廣島)

齋藤助昇 (山梨)

岸川直吉 (佐賀)

龜山猛治 (北海道)

佐々木龍真 (島根)

杉浦齊 (静岡)

鴨川清十郎 (長崎)

松谷讓 (佐賀)

高岡宣次 (東京)

萬田新太郎 (東京)

明治四十一年三月第九回卒業生 (十四人)

本校卒業生 朝鮮語學科

岡田勝利 (愛知)
小田切萬吉 (廣島)
横山英志 (鹿兒島)
田川長次郎 (長崎)
瀧山靖次郎 (長崎)

栗田作四郎 (静岡)
功刀孝義 (山梨)
山田寛治 (新潟)
古内義 (茨城)
北村薩雄 (東京)

木村善淳 (三重)
三好六藏 (香川)
芝崎路可 (東京)
關原二男 (山形)

明治四十二年三月第十回卒業生 (十人)

伊地知直七 (鹿兒島)
猪俣富士雄 (鹿兒島)
西村洪治 (大阪)
岡田榮 (廣島)

松脇正昇 (東京)
松美己之吉 (石川)
藤井亥之助 (大阪)
瀧口亮造 (福岡)

淺香武夫 (福岡)
野口厚三 (秋田)

選科修了生 (二人)

野澤寛一 (新潟)

明治四十三年三月第十一回卒業生 (二人)

西村真太郎 (兵庫)

依田貞美 (東京)

明治四十四年三月第十二回卒業生 (七人)

芳賀正潔 (三重)

奥山仙三 (秋田)

川浪淳平 (佐賀)

本校別科(後專修科)修了生 (いろは順)
英語學科

高橋 行次 (滋賀)	野一色 千七郎 (靜岡)	黒川 善一 (東京)	小山市 太郎 (東京)
園田 辰三郎 (東京)	大西 成太 (香川)	黒田 茂次郎 (長崎)	小山 英吾 (東京)
浦壁 長富 (東京)	岡田 明達 (愛知)	松下 專吉 (靜岡)	三宅 貞齋 (東京)
田中 虎雄 (埼玉)	中川 源三郎 (京都)	大高 準太郎 (東京)	鳥越 盛佐賀
高比良 勝二 (長崎)	的場 悌 (和歌山)		
錦織 房之助 (宮城)	久保 清太郎 (徳島)	松井 英一 郎 (岐阜)	枝 正八 (茨城)
香川 敦太郎 (愛媛)			
伊東 献密 (福島)	興謝 野修 (京都)	野本 彌生 (和歌山)	秋山 運四郎 (宮城)
四村 惠治郎 (滋賀)	多羅間 政輔 (山口)	山崎 正身 (高知)	君 塚 一 (東京)
星野 鏡造 (東京)	野田 爲太郎 (鳥取)	山中 寛次郎 (滋賀)	宮 定平 (廣島)
加賀川 市松 (兵庫)	内藤 明延 (東京)	古谷 綴之助 (東京)	鈴木 孫太郎 (靜岡)
明治三十二年七月第一回別科修了生 (十二人)	明治三十四年七月第三回別科修了生 (五人)	明治三十五年七月第四回別科修了生 (十六人)	

石川 功 (廣島)	内山 秋太郎 (靜岡)	山中 榮藏 (山口)	秋月 源太郎 (靜岡)
片山 喜十郎 (京都)	小川 松輔 (宮城)	松井 徳太郎 (茨城)	峰屋 三千三 (東京)
金子 助次郎 (長崎)	大村 足彦 (東京)	小出 鑑次郎 (東京)	三浦 秀二 (長崎)
古福 典四郎 (長崎)	倉橋 軍治 (宮城)	小泉 有造 (石川)	森 美文 (東京)
谷水 輔 (福島)	山形 龜次郎 (東京)	後藤 敬三 (東京)	
坂垣 昌助 (靜岡)	堀 重幸 (東京)	加藤 雄利 (東京)	眞下 利三郎 (群馬)
原 庄藏 (靜岡)	小笠原 静也 (東京)	高橋 静雄 (東京)	宮越 健太郎 (新潟)
林 善一 (東京)	太田 喜次郎 (京都)	村形 英次郎 (東京)	西戸 友太郎 (岩手)
明治三十七年七月第六回別科修了生 (十二人)	明治三十八年七月第七回專修科(改別科)修了生 (十九人)	明治三十九年七月第八回專修科修了生 (二十四人)	
犬伏 節輔 (徳島)	岡本 稻輔 (神奈川)	多田 作治郎 (福岡)	中野 一三 (香川)
今井 静治 (新潟)	小野 千代太 (廣島)	鷗 見 高 (千葉)	内田 鐵司 (神奈川)
半田 虎雄 (東京)	和田 政治 (新潟)	永井 彌彦 (茨城)	安福 勝美 (岐阜)
西原 修三 (東京)	河村 竹三郎 (岐阜)	長岡 喜一 (山口)	是永 均 (大分)
萩野 由次郎 (埼玉)	糟谷 武城 (鳥取)	中村 三男吉 (東京)	
石塚 久雄 (新潟)	服部 連三 (福島)	萩島 四三二 (東京)	山内 朝吉 (福岡)
伊東 要之輔 (愛知)	林 鏡 (大分)	尾島 林之助 (神奈川)	安藤 兎毛 喜 (長崎)

本校別科修了生 英語學科

伊藤 昭吉 (香川)	四村 彌 (島根)	渡邊 豊一 (廣島)	齋藤 實 (東京)
伊藤 充男 (岐阜)	富永 正清 (長崎)	川口 良清 (新潟)	芝田 茂義 (福岡)
伊矢野 豊三郎 (栃木)	千葉 茂 (岩手)	植田 稔 (東京)	森田 甫 (兵庫)
服部 鏡三郎 (神奈川)	小澤 政行 (東京)	釘宮 極 (大分)	住野 其三 (奈良)
明治四十年三月第九回專修科修了生 (二十二名)			
岡田 鈞 (東京)	藤川 喜一 (東京)	本村 説二 (兵庫)	
小笠原 安太郎 (和歌山)	中山 綱市 (栃木)	雙川 喜一 (東京)	
大津 茂 (東京)	氏江 富藏 (山形)	舟越 升太 (大分)	
川原井 左司馬 (茨城)	藏口 淺次郎 (富山)	青木 秀太郎 (滋賀)	
川崎 康吉 (佐賀)	久米 豊作 (埼玉)	淺石 晴香 (青森)	
芳野 春吉 (愛媛)	丸山 豊澤 (長野)	笹森 章一 (青森)	
明治四十一年三月第十回專修科修了生 (十四名)			
原 忠道 (東京)	河村 正 (東京)	小林 嘉貞 (山梨)	三原 裕 (大分)
西本 龍藏 (廣島)	玉田 耕二 (兵庫)	寺田 祐男 (長野)	鹽川 八男 (香川)
星野 勝藏 (東京)	高倉 俊政 (富山)	天草 三郎 (東京)	
島羽 順二 (東京)	山田 寛治 (新潟)	木村 善淳 (三重)	
明治四十二年三月第十一回專修科修了生 (二十二名)			
市原 文治 (徳島)	太田 清三郎 (岡山)	金田 爾那 (鳥取)	津山 辯一 (大阪)
石井 己代吉 (東京)	渡邊 裕 (東京)	田内 定治 (愛知)	辻 芳哉 (福島)
石田 善太郎 (東京)	金原 利雄 (千葉)	津村 俊雄 (和歌山)	根本 敬三 (東京)

中村 盛司 (千葉)	前田 元四郎 (青森)	坂本 鼎三 (静岡)	菅原 菊治 (宮城)
中島 濱三郎 (栃木)	小林 信一 (東京)	崎田 清一 (東京)	
村越 清太郎 (東京)	小西 好二郎 (奈良)	廣川 喜一 (東京)	
明治四十三年三月第十二回專修科修了生 (十九名)			
大岩 峯吉 (東京)	角田 不二雄 (東京)	榎本 秋次郎 (東京)	菊田 熊太郎 (東京)
田中 健之助 (東京)	村井 巳年 (大分)	天津 莊一 (東京)	檜山 兼次郎 (茨城)
田崎 安榮 (東京)	野村 於菟三 (奈良)	坂本 貞道 (東京)	平野 長太郎 (愛知)
依藤 謹五郎 (茨城)	熊谷 六郎 (岐阜)	櫻井 宗吉 (東京)	土方 井三 (東京)
高橋 隆司 (千葉)	八百 顯龍 (石川)	木下 末雄 (佐賀)	
明治四十四年三月第十三回專修科修了生 (二十七名)			
伊藤 憲三 (東京)	吉田 壽三郎 (熊本)	古市 哲一 (千葉)	近藤 保業 (兵庫)
猪瀬 久三 (茨城)	吉野 正夫 (千葉)	古田 吉五郎 (大阪)	江川 種太郎 (長崎)
岩崎 勝平 (東京)	竹澤 正武 (長野)	深江 彦一 (大阪)	赤藤 羽右 (長野)
大西 竹松 (奈良)	土屋 岐生 (長野)	福崎 節衛 (東京)	齋藤 政一 (埼玉)
大久保 鼎造 (東京)	中川 宗太郎 (大阪)	小林 哲之助 (新潟)	三藤 治三郎 (三重)
吉川 男也 (山形)	工藤 潤次郎 (長野)	小山 體二 (岡山)	柴山 啓一郎 (茨城)
吉田 國松 (北海道)	藤澤 出来造 (東京)	後藤 基固 (滋賀)	

本校專修科卒業生 英語學科

佛語學科

明治三十二年七月第一回別科修了生 (九人)

服部 邦光 (長崎)	歸山 信順 (石川)	山内 健吉 (岐阜)	宮城 大太郎 (千葉)
新原 俊秀 (宮崎)	大野 若三郎 (神奈川)	松原 常次郎 (東京)	鈴木 彌次平 (靜岡)
金光 泰 (大分)			

明治三十三年七月第二回別科修了生 (三人)

井出 哲 (東京)	神谷 龍彦 (愛知)	吉田 六之助 (千葉)
-----------	------------	-------------

明治三十四年七月第三回別科修了生 (三人)

徳岡 梅吉 (鳥取)	上條 辰藏 (長野)	三戸 頼猷 (山口)
------------	------------	------------

明治三十五年七月第四回別科修了生 (十四人)

高岩 勘次郎 (福岡)	山下 安太郎 (埼玉)	淺井 義明 (愛知)	鹿野 岩次郎 (石川)
田村 保三 (千葉)	寺島 成信 (山形)	齋藤 久孝 (兵庫)	關 次郎 (長野)
白井 傳三郎 (長野)	阿部 景毅 (宮城)	佐藤 純太郎 (石川)	
岡田 武松 (千葉)	有吉 秀太 (山口)	三谷 氏郎 (香川)	

明治三十六年七月第五回別科修了生 (八人)

秦 正雄 (三重)	吉岡 七郎 (東京)	黒島 定靜 (高知)	前原 準一郎 (群馬)
木間 重策 (新潟)	野田 爲太郎 (鳥取)	松原 制六 (山口)	齋藤 豐作 (東京)

明治三十七年七月第六回別科修了生 (十人)

石津 利作 (大阪)	中村 平吉 (岩手)	宮崎 團治郎 (長野)	菅谷 龍平 (東京)
生野 團六 (大分)	寺澤 健二 (愛知)	平澤 均治 (青森)	
吉原 開 (東京)	木村 衛 (新潟)	日暮 忠 (東京)	

明治三十八年七月第七回專修科(別科)修了生 (六人)

今道 文一郎 (長崎)	園部 澄 (三重)	崎山 刀太郎 (東京)	宮林 捨藏 (新潟)
池上 泰次郎 (長野)	後藤 清造 (岩手)		

明治三十九年七月第八回專修科修了生 (八人)

井上 通夫 (東京)	大關 久五郎 (青森)	梶田 謙太郎 (東京)	福尾 昇 (島根)
小野 秀太郎 (茨城)	太田 喜二郎 (京都)	田島 道治 (愛知)	鈴木 行三 (群馬)

明治四十年三月第九回專修科修了生 (五人)

飯守 勘一 (佐賀)	渡邊 劍之丞 (埼玉)	梶川 義隆 (東京)	中島 濱三郎 (栃木)
岡 實 (奈良)			

明治四十一年三月第十回專修科修了生 (六人)

市川 節太郎 (石川)	大島 隆吉 (岩手)	淺野 良 (栃木)	平田 稔 (和歌山)
池田 福松 (大阪)	内崎 豊一郎 (宮城)		

明治四十二年三月第十一回專修科修了生 (四人)

本校別科修了生 佛語學科

奥山萬次郎(群馬) 中山隆吉(滋賀) 山口篤郎(東京) 秋間愛一(群馬)

明治四十三年三月第十二回專修科修了生(七人)

河本新一(山口) 松本忠清(愛媛) 榎本明(廣島) 三隅頑三郎(山口)

藤原萬麿(東京) 小林馨(廣島) 天野政太郎(東京)

明治四十四年三月第十三回專修科修了生(六人)

今井吉郎(神奈川) 山脇龜太郎(兵庫) 宮村時一(東京)

原基一(静岡) 郡山嘉内(鹿児島) 杉本伊作(静岡)

獨語學科

明治三十二年七月第一回別科修了生(六人)

田崎復(東京) 松岡定(熊本) 澤田錦義(神奈川) 宮田磯敬(東京)

中村平作(新潟) 幸田成友(東京)

明治三十三年七月第二回別科修了生(九人)

岩崎牛次(茨城) 堀常次郎(岐阜) 歌原兼瓦(愛媛) 杉山正治(東京)

磯野清助(東京) 徳永昌美(東京) 山田又市(新潟)

今福忍(神奈川) 中島松次郎(茨城)

明治三十四年七月第三回別科修了生(八人)

川島庄一(和歌山) 片山外典作(東京) 乙竹岩造(三重) 酒井政吉(石川)

可兒謙(岐阜) 上田長藏(京都) 福井久造(兵庫) 新海吉兵衛(長野)

明治三十五年七月第四回別科修了生(十五人)

伊藤弘一(千葉) 中柴鑠三郎(東京) 久保田敬一(兵庫) 樋口兼治(東京)

堀與三(三重) 中條道次郎(千葉) 工藤武城(熊本) 平木安之助(福岡)

高橋祐治(大阪) 中島田人(北海道) 菊地房三郎(大分) 毛利祐吉(石川)

高橋鑑二(長野) 折原吉之助(東京) 篠田真二(長野)

明治三十六年七月第五回別科修了生(十三人)

本校別科修了生 獨語學科

石崎久吉 (愛媛)	六笠弘躬 (東京)	眞弓 眞 (愛知)	毛利正義 (東京)
伊東榮三郎 (東京)	大久保直記 (長野)	松崎故一 (島根)	
伊東泰助 (千葉)	小倉俊圓 (山口)	合田壽治 (東京)	
吉田喜三郎 (茨城)	黒住靜太 (岡山)	平島直太郎 (徳島)	
明治三十七年七月第六回別科修了生 (十五人)			
石井 敏雄 (岡山)	金田捨吉 (宮崎)	藤本幸太郎 (三重)	森 六藏 (茨城)
井田 豊太 (群馬)	田畑梅次郎 (岡山)	坂田 弘 (千葉)	瀬下 清 (長野)
豊田八代 (兵庫)	野々部本祐 (東京)	澤山勇三郎 (山口)	杉村 信臣 (東京)
大關久五郎 (青森)	山根 靜智 (島根)	佐藤純之助 (埼玉)	
明治三十八年七月第七回專修科(別科)修了生 (十九人)			
伊藤 一那 (東京)	川村 上吉 (千葉)	葛岡 陽吉 (宮城)	瀧美鏡太郎 (群馬)
石田 龜吉 (秋田)	河崎 次雄 (長崎)	矢崎 習吉 (兵庫)	相其 頼綱 (東京)
八田 敏夫 (福井)	田中 親介 (三重)	河野 義璋 (東京)	平島 權藏 (東京)
岡田藤十郎 (愛知)	中田榮太郎 (東京)	小柳 新吉 (新潟)	鈴木 衛平 (静岡)
小田部家資 (秋田)	野島 和吉 (東京)	小鷹 連平 (埼玉)	
明治三十九年七月第八回專修科修了生 (十七人)			
岡田芳之介 (宮城)	村形東之助 (千葉)	坂本寛次郎 (静岡)	持田 二郎 (東京)
吉田 令兒 (兵庫)	梅山 謙 (群馬)	黃川田茂藏 (岩手)	鈴木 毅一 (静岡)
高木 清徳 (島根)	近藤 耕藏 (神奈川)	湯川 直砥 (神奈川)	
高橋 勝 (島根)	近藤 茂吉 (京都)	清水 滄 (神奈川)	

永田源一郎 (茨城)	江川 惣次 (香川)	平山 金作 (愛知)	
明治四十年三月第九回專修科修了生 (二十二)			
伊藤 金八 (三重)	奥村 文平 (岐阜)	倉石 眞三 (長野)	古賀 平太 (佐賀)
稻葉 宇作 (新潟)	尾崎 錦太郎 (岡山)	矢田 鶴之助 (島根)	賀井 徳太郎 (埼玉)
井浦 義久 (福岡)	依田 豊 (長野)	山本 龍三郎 (東京)	佐藤 泰 (東京)
長谷井市松 (岡山)	馬上海太郎 (福島)	間中 綱彦 (東京)	宮部 勝之介 (群馬)
畑田要三郎 (三重)	梅澤 條五郎 (東京)	福山 一 (鹿兒島)	
本田 稔介 (山口)	海沼 博 (長野)	藤井 輝雄 (東京)	
明治四十一年三月第十回專修科修了生 (十三人)			
井上 達子 (廣島)	高野 親雄 (山形)	柳澤 秀吉 (富山)	水谷 恭治 (岐阜)
渡邊 次郎 (東京)	椿 繁藏 (千葉)	前田 弘 (高知)	
神藏 夏一 (新潟)	成松 靜雄 (熊本)	齋藤 糸平 (群馬)	
明治四十二年三月第十一回專修科修了生 (十人)			
飯海 慎二 (愛知)	高橋 鈴彦 (愛知)	八田 清信 (京都)	近藤 只藏 (東京)
林 祐次郎 (愛知)	角田 孝太郎 (新潟)	安武 元十郎 (福岡)	
加藤 輝光 (埼玉)	内記 茂市 (滋賀)	胡以 魯 (清國)	
明治四十三年三月第十二回專修科修了生 (十二人)			
板倉 東海男 (東京)	織田 仙之助 (東京)	神谷 衛平 (東京)	高山 鎌太郎 (東京)

本校專修科修了生 獨語學科

坪田熊雄 (福井)	富士徳治郎 (奈良)	水田恭太郎 (東京)	篠原齋太郎 (山梨)
松田重則 (奈良)	荒井桂三 (東京)	鹽澤直重 (山梨)	下山田正純 (秋田)
明治四十四年三月第十三回專修科修了生 (十四人)			
馬場時藏 (埼玉)	沓掛斧次郎 (長野)	小坂榮次 (新潟)	三好喜和 (富山)
竹島茂那 (三重)	山本孝太郎 (和歌山)	安部藤治 (大分)	周家彦 (藩國)
宇津忠萬 (東京)	福田勝治 (埼玉)	安彦啓次郎 (北海道)	
上原博聞 (山梨)	小林正藏 (東京)	佐々木啓介 (福井)	

露語學科

田中興五郎 (大阪)	澤井才治 (新潟)	明治三十二年七月第一回別科修了生 (二人)
岡部重一 (東京)	松尾長之助 (佐賀)	佐伯迅二 (和歌山)
長野豐彦 (大分)	酒井恒矢 (山形)	明治三十四年七月第三回別科修了生 (二人)
稻澤珍三 (宮崎)	久保田兵一 (北海道)	軍地五郎 (茨城)
大倉勳夫 (山形)	明治三十六年七月第五回別科修了生 (八人)	木下蕃 (福井)
市川謙三 (東京)	奥野幸吉 (兵庫)	村上常那 (宮城)
島居博 (福島)	竹内綱徳次 (三重)	村井英一 (岐阜)
原田三平 (山口)	岡田貞作 (新潟)	村井丑松 (新潟)
	明治三十七年七月第六回別科修了生 (六人)	中川正雄 (兵庫)

本校別科修了生 露語學科

藤井十四三(山口) 三宅 福馬(高知)

明治三十八年七月第七回專修科(別科)修了生(六人)

大友 義勝(東京) 中瀬 覺次郎(富山) 山德 實之輔(東京) 間瀬 越彌(北海道)

根津 鹿之輔(千葉) 成瀬 正義(香川)

細野 正文(新潟)

明治四十年三月第九回專修科修了生(七人)

石橋 則隆(福岡) 高崎 忠一(石川) 上野 信孝(東京) 正田 盛一(東京)

金森 輝夫(岐阜) 竹内 嘉兵衛(東京) 駒田 彌四郎(三重)

劉 用 靜(清國) 山 科 久(栃木) 松井 英一(宮城)

鏡和田 專太郎(神奈川) 松信 春之助(茨城) 宮崎 友次郎(東京)

山本 眞太郎(靜岡) 荒木 頼吉(東京) 皆川 太郎(山口)

明治四十二年三月第十一回專修科修了生(三人)

明治四十三年三月第十二回專修科修了生(五人)

石龜 守人(岩手) 中野 力太郎(東京) 中 島 平(福井) 佐治 喜一(福島)

加藤 盛三(三重)

明治四十四年三月第十三回專修科修了生(四人)

大森 鐵三(愛知) 竹島 馨一(山口) 前田 儀作(東京) 遠藤 宗一(三重)

伊語學科

明治三十四年七月第一回別科修了生(二人)
 平松 茂比古(和歌山)
 明治三十五年七月第二回別科修了生(二人)
 森田 鐵三郎(新潟)
 明治三十六年七月第三回別科修了生(二人)
 菅野 眞(宮城)

西語學科

明治三十二年七月第一回別科修了生(二人)
 津田 弘季(岡山) 渡邊 清(東京)
 明治三十三年七月第二回別科修了生(二人)
 堀口 福彦(岡山)
 明治三十四年七月第三回別科修了生(二人)
 鈴木 三郎(千葉)
 明治三十八年七月第四回專修科(別科)修了生(五人)
 伊藤 恒太郎(山口) 夙田 五十吉(東京) 齋藤 惣吉(山口) 進藤 信雄(群馬)
 大塚 修(愛媛)
 明治四十年三月第五回專修科修了生(五人)
 橋本 靜(滋賀) 加藤 順之介(茨城) 片山 謙(德島) 宮崎 信造(福岡)
 大野 基尚(大分)
 明治四十一年三月第六回專修科修了生(三人)
 緒田 原重雄(福岡) 加手 肇(三重) 吾妻 捨吉(宮城)

本校專修科修了生 西語學科

明治四十二年三月第七回專修科修了生 (二人)
 國久作之助 (福井) 杉本清 (東京)

明治四十三年三月第八回專修科修了生 (五人)
 尾崎光美 (宮崎) 若林高彦 (愛知) 田山保世 (東京) 鈴木眞靜 (兵庫)

清語學科

明治三十二年七月第一回別科修了生 (六人)
 泉水信太郎 (千葉) 鎌田彌助 (鹿兒島) 坂野竹之助 (茨城) 日高賢吉 (長崎)
 加納政太郎 (東京) 小川運平 (埼玉)

明治三十三年七月第二回別科修了生 (七人)
 龜山玄明 (岐阜) 田中慶太郎 (京都) 大久保家道 (東京) 佐藤長次郎 (埼玉)
 高岩勘次郎 (福岡) 中島比多吉 (埼玉) 福崎三太郎 (鹿兒島)

明治三十四年七月第三回別科修了生 (十七人)
 稻澤珍三郎 (宮崎) 村上久吉 (東京) 小澤銀十郎 (長野) 白藤芳夫 (東京)
 唐澤祐慶 (東京) 大橋末彦 (東京) 菊池三九郎 (東京) 關菊麿 (京都)
 高比良勝二 (長崎) 岡田彌 (長野) 菊川龜次郎 (熊本)
 成田文太夫 (宮城) 太田繁 (東京) 岸崇治郎 (鳥取)
 中田金次郎 (東京) 大久保宣家 (東京) 皆川秀孝 (茨城)

明治三十五年七月第四回別科修了生 (十一人)
 田中政吉 (兵庫) 黒澤兼次郎 (富山) 兒玉純 (鹿兒島) 秋吉英三 (東京)
 宅野潔 (山口) 桑原壽一 (山口) 遠藤三藏 (兵庫) 菊地崇 (茨城)
 村田鐵三郎 (愛媛) 松井英一 (岐阜)

本校別科修了生 清語學科

明治三十六年七月第五回別科修了生(十三人)

奧田 猛 (兵庫)	仲西 次郎 (福岡)	淺井 周治 (愛媛)	須賀 幸太郎 (群馬)
吉田 興三郎 (滋賀)	山田 茂三郎 (富山)	北村 一郎太 (長崎)	
芳野 五郎 (東京)	古谷 殿之助 (東京)	宮越 健太郎 (新潟)	
中川 四郎 (愛媛)	小池 英次 (福島)	菅沼 佐喜男 (三重)	

明治三十七年七月第六回別科修了生(十二人)

井上 翠 (兵庫)	金田 雄次 (静岡)	柴 順平 (島根)	清水 知 (愛知)
入澤 豐 (東京)	只野 重次郎 (宮城)	今 透 郎 (青森)	鈴木 仁四郎 (栃木)
太田 貞吉 (東京)	長澤 貞良 (栃木)	椎野 榮一 (新潟)	角田 松次郎 (群馬)

明治三十八年七月第七回專修科(別科)修了生(十九人)

岩村 成中 (千葉)	和田 貫一郎 (東京)	山崎 成太郎 (奈良)	新井 信次 (東京)
石原 新七 (埼玉)	田淵 清一兵衛 (徳島)	松本 義圓 (廣島)	天野 准一 (愛知)
西田 周平 (富山)	宇井 英 (東京)	卷 雄四郎 (東京)	安藤 聖次 (岐阜)
岡山 周藏 (兵庫)	草場 力 (愛知)	福田 四郎 (岐阜)	森山 徳助 (島根)
茨島 四三二 (東京)	山野 井虎市 (東京)	青木 金太郎 (奈良)	

明治三十九年七月第八回專修科修了生(十七人)

遠山 吉之介 (愛知)	加藤 庸三 (群馬)	小林 源造 (東京)	木下 茂雄 (東京)
富田 康平 (静岡)	津田 榮 (大阪)	遠藤 重男 (福岡)	寺境 彌 (東京)
德永 政一 (山口)	久保 清吉 (廣島)	荒川 徳一 (東京)	

小澤 銀次郎 (東京)

福田 清一 (群馬)

齋藤 伊右衛門 (東京)

明治四十年三月第九回專修科修了生(二十四人)

伊藤 東一郎 (岩手)	大多和 登實吉 (宮崎)	山本 寅雄 (東京)	湯山 牛兵衛 (神奈川)
池田 良太郎 (山形)	大野 彌夫 (東京)	福田 榮治 (埼玉)	行岡 宇多之助 (東京)
濱野 萬吉 (東京)	龜山 猛治 (北海道)	小山 義龜 (福岡)	庄田 規矩郎 (東京)
長谷川 豐男 (埼玉)	上遠野 武 (宮城)	近藤 菊雄 (富山)	下平 晋 (長野)
西島 德太郎 (東京)	浦田 二郎 (東京)	朝比奈 泰吉 (兵庫)	守田 藤之助 (東京)
小川 吉之助 (東京)	黒田 茂八 (富山)	木村 重藏 (福島)	關根 富貴男 (東京)

明治四十一年三月第十回專修科修了生(十六人)

今藏 熊太郎 (東京)	山田 謙次郎 (新潟)	鮫島 時應 (鹿児島)	三木 宗太郎 (徳島)
村田 友三郎 (栃木)	松脇 正昇 (東京)	酒葉 道信 (東京)	樋口 鐵六 (東京)
植田 一夫 (神奈川)	後藤 勢一 (香川)	三枝 一郎 (東京)	森 徳次郎 (静岡)
栗山 勝正 (山口)	手塚 武義 (山梨)	水谷 一之亮 (三重)	杉本 吉五郎 (東京)

明治四十二年三月第十一回專修科修了生(十三人)

新島 謙吉 (東京)	中川 好助 (静岡)	菅 眞人 (愛知)	菱伊 新三郎 (宮城)
神谷 豊左衛門 (愛知)	中山 忠次 (和歌山)	山田 久太郎 (富山)	
高橋 貞之助 (東京)	中路 留吉 (福岡)	山根 藤七 (島根)	
長崎 元一 (東京)	村田 春江 (千葉)	齋藤 清俊 (秋田)	

本校專修科修了生 清語學科

明治四十三年三月第十二回專修科修了生 (十人)

市川保一 (東京)	藤川文近 (長崎)	矢部力雄 (群馬)	小池二郎 (東京)
今井健彦 (静岡)	内藤繁治 (東京)	山田萬助 (東京)	宮崎太郎 (東京)
秩父固太郎 (東京)	中村米壽 (長野)		

明治四十四年三月第十三回專修科修了生 (十人)

今井仁平 (兵庫)	岡松象雄 (大分)	竹内源次郎 (福岡)	島田一郎 (埼玉)
長谷部巖 (岐阜)	加藤建次郎 (愛知)	中村三藏 (香川)	杉山喜平 (大阪)
太田資事 (茨城)	片桐悟治郎 (新潟)		

朝鮮語學科

明治三十四年七月第一回別科修了生 (一人)

井上安次郎 (京都)

明治三十九年七月第二回專修科修了生 (五人)

岡本橋之助 (東京)	村木流 (三重)	比佐祐次郎 (秋田)	杉原憲太郎 (福島)
七邊格太郎 (岡山)			

明治四十年三月第三回專修科修了生 (二人)

新納賢司 (東京)

明治四十一年三月第四回專修科修了生 (二人)

西村獅子雄 (岐阜)

明治四十二年三月第五回專修科修了生 (二人)

大谷任功 (福島)

明治四十三年三月第六回專修科修了生 (四人)

多田 關 (鳥取)	田村 京吉 (岩手)	有山 謙藏 (埼玉)	三好 春雄 (東京)
-----------	------------	------------	------------

明治四十四年三月第七回專修科修了生 (二人)

本校專修科修了生 朝鮮語學科

明治四十年三月速成科修業生

露語學科 (十九人)

渡邊源四郎(石川)	竹室卯造(兵庫)	福井敬藏(東京)	曾川太郎(山口)
程田藤吉(東京)	宗文江(東京)	高井範中(清國)	三浦安兵衛(愛知)
戶川末三(東京)	根岸伊七(群馬)	厚美清太郎(德島)	鹽田彌惣八(滋賀)
奧山光茂(鹿兒島)	山口甲子男(靜岡)	秋草愛一(群馬)	茂木德音(長野)
押見寅之助(東京)	保田宗治郎(神奈川)	湯淺誠作(群馬)	

清語學科 (二十九人)

林善一(東京)	竹中信以(東京)	松浦捨吉(和歌山)	岩本正木(長野)
西山章二(福岡)	藤原守重(山梨)	藤岡藤三(德島)	澁谷兵八(岐阜)
細川久(岩手)	長村元吉(千葉)	舟津勝三(東京)	清水清次(山形)
土井芳輔(山口)	中村春之助(神奈川)	江口是三郎(佐賀)	鈴木一良(東京)
川谷太郎(高知)	中野繁之丞(岩手)	新井慶太郎(埼玉)	鈴木榮之丞(長野)
立花慶應(福岡)	矢野繁之丞(岩手)	秋元雄治(群馬)	
高山好野(新潟)	松岡龍吉(岐阜)	酒井恒記(愛媛)	
辰川實(愛媛)	松田知禮(愛媛)	岸田國太郎(京都)	

韓語學科 (十四人)

池田傳次(秋田)	石川竹三郎(埼玉)	興津健夫(東京)	田中徳太郎(青森)
----------	-----------	----------	-----------

速成科修業生 露語學科 清語學科 韓語學科

中澤鐵太郎(東京) 山中忠太(三重) 北山清(茨城) 巖 森 兒(愛知)
 野澤寛一(新潟) 松岡未廣(愛媛) 宮崎侃(東京)
 黒羽資明(茨城) 足助嘉一郎(長野) 島谷直方(富山)

東洋語速成科修業生

馬來語學科

明治四十二年三月第一回修業生(十六人)

飯塚重一(埼玉) 笠村思敬(栃木) 中村床太郎(福井) 松信春之助(茨城)
 林虎太(香川) 加藤治影(静岡) 宇野耕雲(東京) 松井秀三(鳥取)
 小野良吉(大分) 田中興平(長野) 野口郁彦(北海道) 近藤正二(東京)
 萩島良三(埼玉) 中島懋一(東京) 久保田善一郎(茨城) 寺尾照次(北海道)

明治四十三年三月第二回修業生(二人)

岩室哲次郎(廣島) 秋保俊治(宮城)

明治四十四年三月第三回修業生(四人)

板垣龍三(山形) 山道儀三郎(群馬) 木全省吾(愛知) 森田三郎(東京)

ヒンドスタニー語學科

明治四十二年三月第一回修業生(十二人)

稻見憲吉(栃木) 小栗 明(岐阜) 大澤友吉(千葉) 金村良太郎(東京)

東洋語速成科修業生 馬來語學科 ヒンドスタニー語學科
 タミル語學科 蒙古語學科

鷹 屋 祐 攝 (富山) 土 屋 政 次 郎 (岡山) 上 田 孝 三 (三重) 赤 羽 宇 重 (長野)

武 關 久 壽 (栃木) 鶴 飼 仙 之 助 (岐阜) 山 室 廉 吉 (宮崎) 阿 滿 得 壽 (京都)

明治四十三年三月第二回修業生 (三人)

石 山 善 壽 (栃木) 野 口 一 三 郎 (新潟)

明治四十四年三月第三回修業生 (五人)

豐 田 忠 太 郎 (石川) 橫 山 金 三 郎 (滋賀) 渥 味 肇 (静岡)

神 崎 友 吉 (栃木) 江 尻 正 一 (茨城)

タミル語學科

明治四十二年三月第一回修業生 (四人)

田 中 俊 三 (和歌山) 柳 田 光 之 助 (東京) 秋 元 善 藏 (青森) 三 宅 正 (愛媛)

明治四十三年三月第二回修業生 (三人)

和 田 逸 三 (兵庫) 渥 味 肇 (静岡)

蒙古語學科

明治四十二年三月第一回修業生 (六人)

石 山 福 治 (新潟) 吉 田 順 三 (東京) 藤 森 勇 (長野) 三 俣 二 郎 (群馬)

西 田 興 左 衛 門 (東京) 中 島 友 次 郎 (群馬)

明治四十三年三月第二回修業生 (三人)

猪 狩 重 光 (北海道) 高 橋 安 親 (新潟) 高 田 治 作 (北海道)

明治四十四年三月第三回修業生 (七人)

大 地 亮 平 (千葉) 片 野 孝 三 (福島) 神 谷 衡 平 (東京) 宮 島 鹿 雄 (佐賀)

脇 川 文 近 (長崎) 笠 井 清 三 郎 (三重) 淺 野 睦 (東京)

第五臨時教員養成所卒業生

明治三十七年三月第一回卒業生 (二十六人)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 池田朝長 (東京) | 越智國一 (愛媛) | 梅谷興一 (埼玉) | 坂部和三郎 (愛知) |
| 泉本覺一 (奈良) | 岡村邦雄 (三重) | 國枝昇 (熊本) | 木下芳雄 (東京) |
| 芳賀重治 (宮城) | 川瀬兼治 (山形) | 八十興一 (兵庫) | 森 (大分) |
| 橋村惠五郎 (高知) | 金井半三郎 (群馬) | 山田孝太郎 (茨城) | 關 (鹿兒島) |
| 二瓶兵二 (福島) | 高橋良一 (岩手) | 山本市太郎 (島根) | 鈴木 (栃木) |
| 小川政之助 (香川) | 並河良孝 (島根) | 小林光 (東京) | |
| 小野 斐 (青森) | 向高良夫 (宮崎) | 江副秀喜 (熊本) | |

明治三十九年三月第二回卒業生 (二十五人)

- | | | | |
|------------|------------|-----------|-----------|
| 西村昂三 (島根) | 田子富彦 (鳥取) | 眞方友二 (宮崎) | 宮田峰一 (廣島) |
| 堀尾柳市 (島根) | 龍崎保 (長野) | 福元一 (鹿兒島) | 清水勇 (愛媛) |
| 本郷瓦喜治 (宮城) | 名原廣三郎 (島根) | 今元鶴 (青森) | 平岩元吉 (愛知) |
| 傍士瀧治 (高知) | 中溝澄三 (東京) | 五島退藏 (徳島) | 鈴木 (東京) |
| 小田四郎 (宮崎) | 仲本吉一 (沖繩) | 阿部參治 (岩手) | |
| 大田盛 (香川) | 夏原由三郎 (滋賀) | 赤井知洗 (奈良) | |
| 加藤治射 (静岡) | 山本甚輔 (山口) | 佐藤國彦 (福島) | |

明治四十四年三月二十八日卒業式ニ於ケル演說祝辭等

村上校長報告

本日第十二回卒業證書授與式ヲ舉行スルニ方リ文部大臣閣下代理文部次官閣下、佛國大使閣下、露國大使閣下、伊國大使閣下、代理智利國公使閣下、其他來賓諸君ノ臨席ヲ辱ウセルハ本校ノ光榮トスル所ナリ

本校本學年末現在ノ教員ハ教授二十名、助教授五名、僱外國人十一名、講師二十一名ニシテ生徒ハ英、佛、獨、露、伊、西、清、朝鮮ノ八語學科各年通計本科三百九十二名、選科十六名、專修科二百三十七名、東洋語速成科十六名、總計六百六十一名ナリ、内今回ノ卒業者ハ本科百二十九名、選科三名、專修科六十三名、東洋語速成科十六名ナリ

從來ノ本科卒業生ヲ職業別ニスルトキハ教育事業ニ從事スル者二百十二名、官廳ニ勤務スル者百九十六名、實業ニ從事スル者三百九十九名、修學者二十六名、兵役服務中ノ者二十二名、死亡者五十八名、其他ノ者百七十三名ニシテ内、外國ニ在ルモノ二百五十餘名ナリ、卒業生ノ總數ハ本年度ノ百二十九名ヲ加フレハ千二百十五名

明治四十四年三月卒業式ニ於ケル演說祝辭等

ナリ

小松原文部大臣祝辭 (岡田文部次官代讀)

爰ニ本日ノ卒業式ヲ舉グルニ當リ卒業生諸子ノ前途ヲ祝シ一言之ニ諗クルハ本大臣ノ欣フ所ナリ

惟フニ東西ノ交通日々ニ繁ク學術ニ實業ニ其他百般ノ事皆彼此相濟シ相倚ルヲ要スルノ今日外國語ニ精通シテ之カ運用ニ自在ナル人士ノ力ニ須タサルヘカラス隨ツテ卒業生諸子ノ是ヨリ從事スル所素ヨリ其ノ揆ヲ一ニセサルヘシト雖モ外ハ既修ノ知識ヲ活用シテ忠實ト勤勉トヲ以テ事ニ當リ各自ノ地位境遇ニ應シテ邦家ノ進運ニ貢獻センコトヲ圖リ内ハ益々學術ノ研精ト人格ノ修養トニ努メ以テ大成ヲ將來ニ期センコトハ諸子カ齊シク覃思スヘキ所ニシテ本校教養ノ旨趣亦實ニ之ニ外ナラス故ニ今日特ニ之ヲ以テ諸子ニ告ケ以テ祝辭トス

明治四十四年三月二十八日

文部大臣 小松原 英太郎

卒業生總代謝辭

奥川 元一 (獨語演述)

Ew. Excellenz, Herr Unterrichtsminister:

Hochgeehrter Herr Direktor und Herren Professoren:

Mit den Empfindungen der ehrerbietigsten Dankbarkeit erlaube ich mir, in Anwesenheit so vieler hohen Gäste im Namen der Abiturienten des regulären Kurses die herzlichste Freude darüber auszusprechen, dass wir die grosse Ehre haben, beim heutigen Abgangsfeste mit dem Reifezeugnis entlassen zu werden. Ehrfurchtsvoll bringen wir unseren Dank für die freundlichen Worte dar, die uns soeben von Seiten Seiner Excellenz, dem Herrn Unterrichtsminister und von dem hochverehrten Herrn Direktor gewidmet wurden. Wir wissen nicht, wie wir unseren Dank bezeigen sollen für die unsägliche Mühe und Sorge, die unsere lieben Herren Professoren während dieser drei Jahre um uns gehabt haben. Ihre unablässige Bemühung und Ihr unermüdetes Streben nach Erweiterung unserer Kenntnisse und Ausbildung unseres Geistes sind so gross, dass wir unmöglich die passenden Worte finden können, mit welchen wir unserem dankbaren Gefühl dafür Ausdruck geben. Die Kenntnisse, die wir etwa haben, und die uns heute widerfahrne Ehre sind ganz dem hochgeehrten Herrn Direktor und den so liebevoll bemühten Herren Professoren zu verdanken.

明治四十四年三月卒業式ニ於ケル演說祝辭等

百四十九

Nun ist unsere ewig denkwürdige Studentenzeit vorüber. Gar schnell. Obwohl ein jeder von uns sie richtig benutzt hat? Vierzehn Tage sind erstvergangen, seit wir den Schulkorridor an den Nagel gehängt haben, seitdem wir die deutsche Grammatik mit dem Glockenzeichen der letzten Schulstunde geschlossen haben.

Mancher von uns hat drei Jahre lang sehnsüchtig auf diese Stunde gewartet. Mancher von uns war gewiss manchmal unwillig das Joch der Schule zu tragen. Nun ist die sogenannte goldene Freiheit gekommen. Und was ist das erste, das wir in diesen vierzehn Tagen gelernt haben, wo wir uns noch einer (neuen) Lebensstellung umsehen. Ach wir haben schon jetzt dem Ernst des Lebens ins Gesicht gesehen. In den drei Jahren, da wir die Schulbänke der Gwaikokugoguko gedrückt haben, haben wir uns gewöhnt, die freundlichen Bemühungen der Lehrer um unsere weitere Entwicklung und ihre Nachsicht als etwas Selbstverständliches hinzunehmen. Aber das wissen wir schon jetzt, wo wir in den Kampf ums Dasein eben erst eintreten: Solch persönliche Anteilnahme und solch unerschütterliche Nachsicht gegen unsere mannigfachen Nachlässigkeiten und Fehler, dürfen wir in der Schule des Lebens kann erwarten. Wir haben es oft hergesagt das alte Wort: Non scholae, sed vitae discimus, aber jetzt spüren wir es am eigenen Leibe. Wer nichts kann, der ist nichts und jeder muss am Ende der Zeche die Rechnung selbst bezahlen. Unsere Schule heisst die Schule der fremden Sprache und die fremden Sprachen sind etwas Modernes, Lebendiges. Auch von dem Studenten der modernen Sprachen gilt Schillers Wort vom Krieger: „Da tritt kein anderer für ihn ein, auf sich selber steht er da ganz allein.“ Wer wirklich

nichtgelernt hat fest auf seinen beiden Füßen zu stehen, der muss in diesem Kampf fallen, das haben wir in diesen vierzehn Tagen schon gelernt. Aber glücklicherweise nimmt jeder einzelne von uns ein gutes, festes Fundament, auf dem er erfolgreich weiter arbeiten kann, wenn er nur selbst will, mit in das Leben hinaus. Schon jetzt wünschten wir, wir hätten die uns gebotene Lern Gelegenheit eifriger benutzt und hätten die unerschöpfliche Geduld unserer hoch verehrten Lehrer nicht so oft auf eine harte Probe gestellt. Aber um so feierlicher können wir, hochgeehrter Herr Direktor und hochverehrte Herren Professoren, Ihnen zum Schluss hier die Versicherung geben, dass wir immer für die Kenntnisse, die Sie uns in den Kampf des Lebens mitgegeben haben, und für die gütige Nachsicht, die Sie uns stets zeigten, Ihnen nicht mit leeren Worten, sondern im innersten Herzen innerdar ehrlichen Dank wissen werden.

奧山仙三 (朝鮮語演述)

今日盛大卒業證書授與式에生等을爲하야 文部大臣閣下께서와 貴賓各位께서는專委하야거枉臨하시고저 校長閣下께서는懇切하신訓誡를하야주시니生等の榮光이何事가此에서더하오릿가回顧하은則生等이本校에在하리이既히三星籍이되얏는디수에至하야卒業證書를得하오니其所自出을말하오면校長閣下の指導하심과 敎官各位의敎育하심이오니感謝하은일은엇지말노다하릿가然호디今將

辭校^ヲ야 各位^ノ親^ヲ灸^チ 못^호게 되^엿스오나 瞻慕^ノ之情^ヲ 禁^치 못^호을 지라 然이나 生等^ノ의前途^ガ 長遠^ヲ야 責任^ハ은 重大^호고 世路^ハ는 崎嶇^호은 지라 竊念^컨디 昨年^ハ 八月^ニ에 日韓^{兩國}이 合併^이된後^ニ에 當局^者가 朝鮮^{統治}上^ニ에 朝鮮^語를 通^하者^ヲ의 期待^호이 已前^보답^디할지니 同時^에 生等^이 各^其自己^의 身分^ヲ을 分明^히 覺悟^호고 그 職責^의 重大^호을 眞^實的^히 開悟^호야야^호을 지라 生等^은 本校^에 入學^호와 朝鮮^語工^夫호^음이 幾年^이되 엿스오나 但實地^의 研究^가 未^有은 極^히 愧歎^호은 마라 然이나 朝鮮^{土地}를 開拓^호고 朝鮮^{人民}을 引導^호이 生等^의 義務^인 責^任을 盡^하야오나 或實業^上에 目的^ヲ을 삼^던지 或政治^나 教育^上에 目的^ヲ을 삼^던지 우리 一般^{卒業生}이 學術^을 增^長호^며 心力^을 協^同호^며 聲氣^를 連絡^호고 精勵^{刻苦}호^야 一邊^{으로}는 國家^에 微力^을 盡^호고 一邊^{으로}는 今日^에 教悔^를 不忘^호을 期^호을^노이다

今日^{如此} 尙盛大^호 卒業^式을 當^호와 眞實^호 感謝^호고 感謝^호은 口^舌을 不勝^호야 朝鮮^語 學科^{卒業生} 一同^의 代表^가되야오나 마디 蕪辭^로 答辭^을 代身^호을^노이다

專修科修了生總代謝辭

近藤保業 (英語演述)

In the name of the graduates of the Special Course of our beloved school, I have the pleasure of saying a few words to express the deep gratitude which we feel.

In this good season of early spring when trees are in bloom, we have completed the prescribed course of studies in the Tokio School of Foreign Languages and diplomas have been given us in the presence of the representative of His Excellency the Minister of State for Education and other distinguished guests. Nothing can give us greater honour than this.

Permit me, first of all, to express our thanks for the kind words just addressed to us by His Excellency the Minister of Education and our respected Director. In reply I humbly beg to assure them that we will bear their instruction in our minds and try all we can to follow it.

It is now two years since we were admitted to this school. A course of two years is by no means long for the acquisition of a foreign language, yet during this period, we have had many a happy hour with our dear professors, by whose instruction and under whose guidance we have been able to acquire what knowledge of language we possess—a knowledge which we prize above all our possessions. We reflect with joy that with our knowledge of the language we are in a better position than before to discharge our duties. All this we owe to the indefatigable

exaltions of our beloved professors. How to express our thanks for all they have done for us during the past two years we do not know. It is beyond my command of language.

Our professors, moreover, have themselves shown us a model of high character and noble life, thus enabling us to profit morally as well as intellectually.

The relation between Japan and the rest of the world is growing more and more close; the number of foreigners residing in Japan and of Japanese residing in foreign countries is constantly on the increase. It is needless to say that the more we enter into the comity of nations the more keenly we feel the necessity of knowing foreign languages.

We now bid you farewell, and with our knowledge, the gift of the school, we engage in our different lines of business, and will do all we can to promote the welfare of the country.

We have been told that honour is always accompanied by responsibility. Indeed we feel the greatness of our responsibility, since we must prove worthy of such an honour. However, we do not fear, as we are equipped with the instruction we have received, and we will march into the world with courage and hope.

In conclusion, I beg to assure you that we shall never forget the happy hours we have had in this school and the great honour bestowed upon us to-day. We shall endeavour for the further cultivation of knowledge and character and exert to the utmost of our powers for the public good.

I once more humbly tender my best thanks on behalf of my fellow-graduates and myself.

東洋語速成科修業生總代謝辭

渥 味 齋 (コンドタスニ一語演述)

Jamaab-i-lawzereen wa mo deer-i-madreseh wa moallemeen.

Aaj, jo athnaesween march sun ohwawalees joloosee hai aur hamaa my madreseh kay kama-yaab talabeh ko sanad milny kaa maka hai, hamien jamaab-i-aalee naab-i-wazeer-i-maarib aw dooserny bozungon kee tashreef laamay say baraa fakhr haasil hoo.

Urdooi-mollaa donyakee zabanon mien momtaaz shomarktee jattee hai. Woh bahot sheereen aur pakkeezeh zaabaan hai. Jis ko yeh zaaban maaloom ho woh bay kharfo khatar Hindustan mien seyaahat karsaktaa hai. Japan ko Hindustan say hamishah taalook rahaa hai. Magar jab say Buddha kaa deen aayaa to Hindustan kaa asar hammaray jismo jann sab mien samaa gaya. Aayshiyaaie molkon kay tanazzul kay sabab haa apnay dostoon say paraaray ban gay. Ab khodaa kay fazzl say pher Hindustan say taalook payda ho chahaa hai. Aik dan woh the keh Hindustan kee banee hooie cheezen tumann donya mien jattee thien. Aur aaj aur molkon kee banee hooee cheezen Hindustan mien khaptee hain. Japan kee tejaarat Hindustan mien rooz ba rooz tarakkee par hai. Agar haa Hindustanie zaabaan seekhen to haa Hindustan jaakar os molk ko deekh sakeh gay aur tejaarat barha sakeh gay. Ba kaul-i-shakhsay-haa khomaa wa haa sawaab.

第三章 會費及寄附

第八條 正會員ハ入會金壹圓及會費年額金參圓ヲ納ム可シ
但入會金ハ入學ノ際ニ之ヲ納メ會費ハ三回ニ分チテ每學期授業料ト同時ニ納ム可シ

第九條 特別會員ハ會費トシテ每月俸給月額百二十五分ノ一(外國人ハ百五十分ノ一)ヲ納ム可シ但四捨五入ヲ以テ錢位ニ止ム

第十條 名譽會員及贊助會員ハ會費ヲ納ムルコトヲ要セス

第十一條 有志者ヨリ金圓又ハ物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ本會ノ記錄ニ掲クヘキモノトス

第四章 部門

第十二條 本會ニ左ノ四部ヲ置ク

- 第一 武術部
 - 第二 陸上運動部
 - 第三 水上運動部
 - 第四 文藝部
- 但各部ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 役員

第十三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

但必要ノ場合ニハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

會長	一名	副會長	一名
部長	四名	評議員	十五名以內
幹事	十七名 <small>第一部三名、第二部三名、第三部六名、第四部五名</small>	委員	各級一名
主計	一名	錄事	一名

第十四條 會長ハ東京外國語學校長之ニ當ル

第十五條 會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理ス

第十六條 副會長ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第十七條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

第十八條 部長ハ委員會ニ於テ特別會員中ヨリ選舉シ會長之ヲ囑託ス

第十九條 部長ハ各部ノ事務ヲ掌理ス

第二十條 評議員ハ特別會員及贊助會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第二十一條 評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ本會ノ重要ナル事項ヲ審議ス

第二十二條 幹事ハ委員會ニ於テ正會員中ヨリ選舉シ會長之ヲ任命ス

第二十三條 幹事ハ部長ヲ輔ケテ各部ノ事務ヲ處理ス

第二十四條 委員ハ各級ヨリ一名ヲ互選シ本會一切ノ事項ヲ評決ス

第二十五條 主計ハ本校ノ會計課員中ヨリ會長之ヲ囑託シ本會一切ノ出納ヲ掌

ル

第二十六條 録事ハ本校事務員中ヨリ會長之ヲ囑託シ本會ノ記録ヲ掌ル

第二十七條 本會役員ノ任期ハ滿一箇年トス但毎年四月ヲ以テ任期ノ始トス

第二十八條 各役員會ハ半數以上ノ出席者アルニアラサレハ成立セサルモノト

ス

第六章 豫算及決算

第二十九條 豫算ハ各部幹事之ヲ編成シ部長會ノ査定ヲ經テ委員會ノ議ニ附シ會長ノ認可ヲ經テ之ヲ決定ス

第三十條 會計年度ハ四月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第三十一條 決算ハ毎年六月末日マテニ委員會ニ報告シ其承認ヲ受クヘシ

第七章 規則改正

第三十二條 本會規則ハ委員會ノ決議ニヨリ會長ノ認可ヲ經テ改正スルコトヲ得

附 則

本則ハ明治三十九年十一月三日ヨリ全部施行ス

東京外國語學校內東京外國語學會規則

第一章 名稱

第一條 本會ハ東京外國語學會ト稱ス

第二章 目的

第二條 本會ハ外國語學ノ獎勵ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ諸外國ノ近世語及古語ノ研究講習、編纂、翻譯ニ從事スルモノトス

第三章 會員

第四條 本會々員ヲ分テ通常會員、特別會員ノ二種トス

一、通常會員 東京外國語學校職員

二、特別會員 本會ノ目的ヲ贊成シソノ事業ヲ助クルモノニシテ通常會員三

分ノ二以上ノ同意ヲ經テ入會シタルモノ

第四章 役員

第五條 本會ニ理事三名ヲ置キ本會全般ノ事務ヲ管理セシム

第六條 理事ハ通常會員中ヨリ互選ス

第五章 部門

第七條 本會ニ左ノ三部ヲ置ク

第一 講究部

第二 編輯部

第三 翻譯部

第六章 講究部

第八條 講究部ハ諸外國語及其教授法ヲ講究スルヲ以テ目的トシ必要ニ應シテ講習會ヲ開設ス

第七章 編輯部

第九條 編輯部ハ諸外國語ノ字書、文法書、其他ノ編纂事業ニ當ルモノトス

第八章 翻譯部

第十條 翻譯部ハ諸外國語ニ係ル翻譯ニ從事スルモノトス

第十一條 本部ノ附屬事業トシテ公私ノ依頼ニ應シテ左ノ外國語ノ翻譯ヲナス

コトアルヘシ

一、近世語 英、佛、獨、露、伊、西、清、和、蘭、葡、荷、牙、丁、味、瑞、典、那、威、暹、羅、馬、來、土、耳、其、蒙、古、印

度、朝鮮

二、古語 アリヤン語、セミチック語

第九章 規則改正

第十二條 本會規則ノ改正ハ通常會員三分ノ二ノ同意ヲ要ス

3	187
27	57
33	58
43	27
44	27
17	27
26	1
6	12
12	19
18	18
17	18
	03

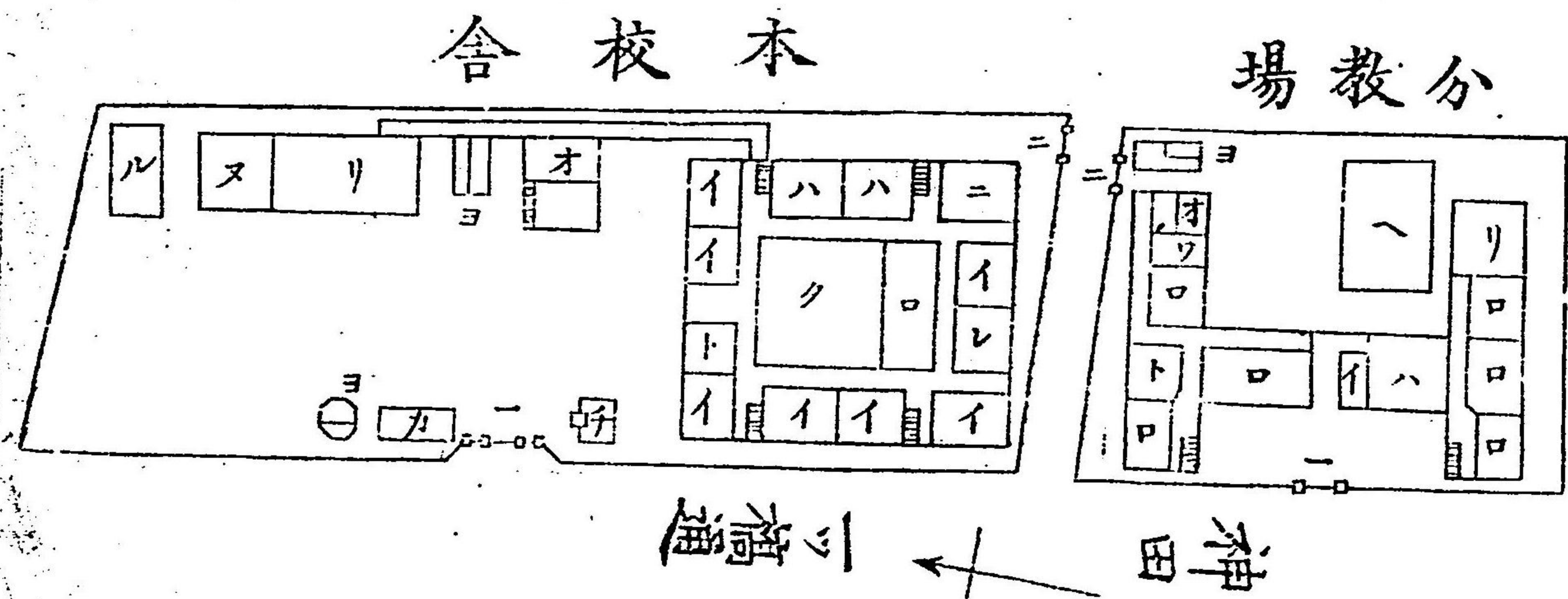
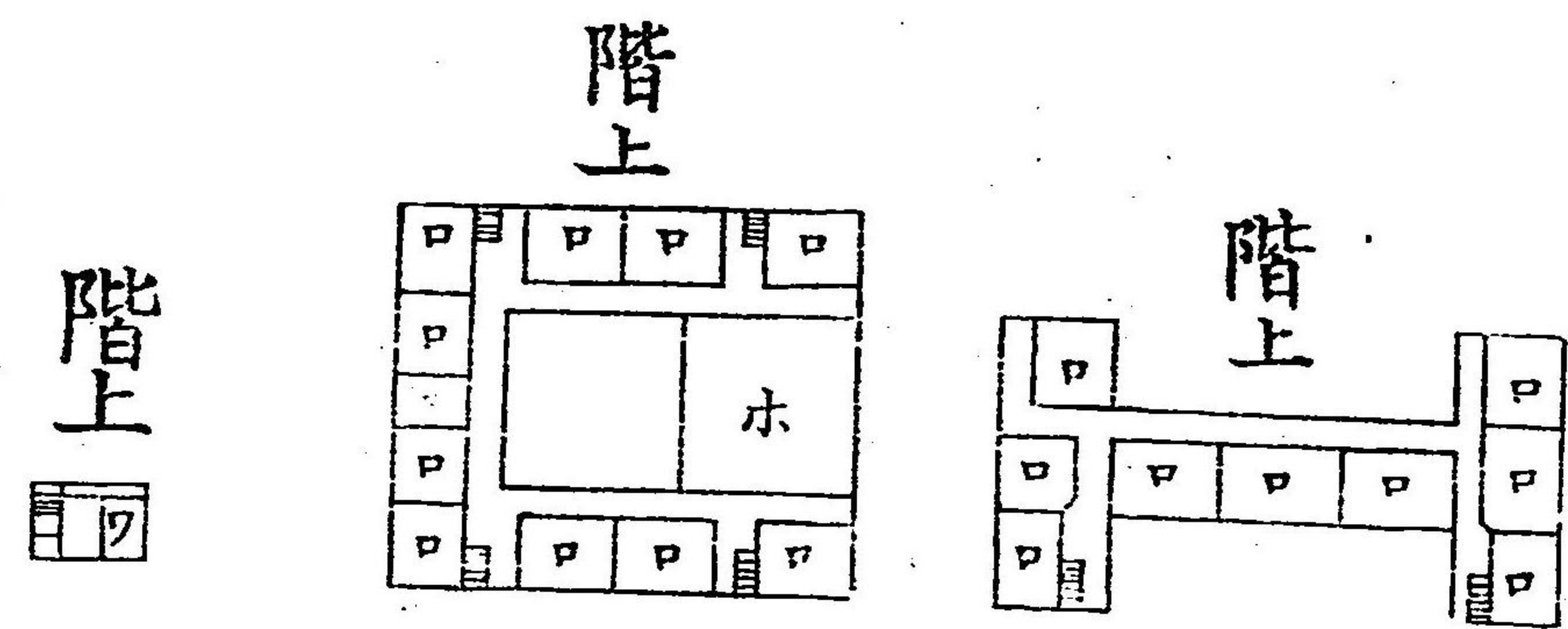
本校入學志願者、入學者及卒業者累年比較表

年度	本 科					專 修 科				
	入學志願者	入學者	卒業生	入學志願者	入學者	卒業生	入學志願者	入學者	卒業生	
三十一年	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	
三十二年	二二	二七	二八	二二	二七	二八	二二	二七	二八	
三十三年	一一	二六	二八	一一	二六	二八	一一	二六	二八	
三十四年	二〇	二八	二八	二〇	二八	二八	二〇	二八	二八	
三十五年	一八	二八	二八	一八	二八	二八	一八	二八	二八	
三十六年	一四	二八	二八	一四	二八	二八	一四	二八	二八	
三十七年	一八	二八	二八	一八	二八	二八	一八	二八	二八	
三十八年	一一	二八	二八	一一	二八	二八	一一	二八	二八	
三十九年	一九	二八	二八	一九	二八	二八	一九	二八	二八	
四十年	二四	二八	二八	二四	二八	二八	二四	二八	二八	
四十一年	二二	二八	二八	二二	二八	二八	二二	二八	二八	
四十二年	二四	二八	二八	二四	二八	二八	二四	二八	二八	
四十三年	二〇	二八	二八	二〇	二八	二八	二〇	二八	二八	
四十四年	一八	二八	二八	一八	二八	二八	一八	二八	二八	
四十五年	一一	二八	二八	一一	二八	二八	一一	二八	二八	
四十六年	一四	二八	二八	一四	二八	二八	一四	二八	二八	
四十七年	一六	二八	二八	一六	二八	二八	一六	二八	二八	
四十八年	一四	二八	二八	一四	二八	二八	一四	二八	二八	
四十九年	一六	二八	二八	一六	二八	二八	一六	二八	二八	
五十年	一七	二八	二八	一七	二八	二八	一七	二八	二八	
五十一年	一六	二八	二八	一六	二八	二八	一六	二八	二八	
五十二年	一七	二八	二八	一七	二八	二八	一七	二八	二八	
五十三年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	
五十四年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	
五十五年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	
五十六年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	
五十七年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	
五十八年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	
五十九年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	
六十年	一五	二八	二八	一五	二八	二八	一五	二八	二八	

東京外國語學校建校物略圖

縮尺二千百分之一

レ タ ヨ カ フ オ ル ヌ リ チ ト ヘ ホ ニ ハ ロ イ ニ 一
 書 中 便 供 宿 小 物 銃 生 巡 應 道 講 圖 教 教 事 通 正
 待 直 使 器 徒 視 接 書 官 務 用
 庫 庭 所 所 室 室 置 室 所 所 室 場 堂 室 室 室 門 門



東京外國語學校編輯部

明治四十四年七月二十日印刷
明治四十四年七月廿五日發行

東京市神田區錦町三丁目

東京外國語學校

電話本局六〇六番

印刷者 島 連 太郎

東京市神田區美土代町
二丁目一番地

印刷所 三 秀 舍

東京市神田區美土代町
二丁目一番地

IT 5M 70

神宮寺
神宮寺
神宮寺

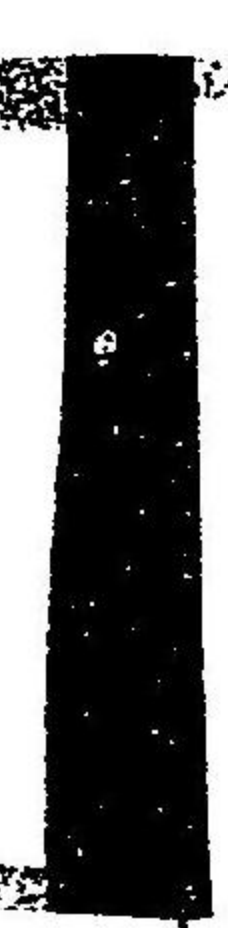
法華經

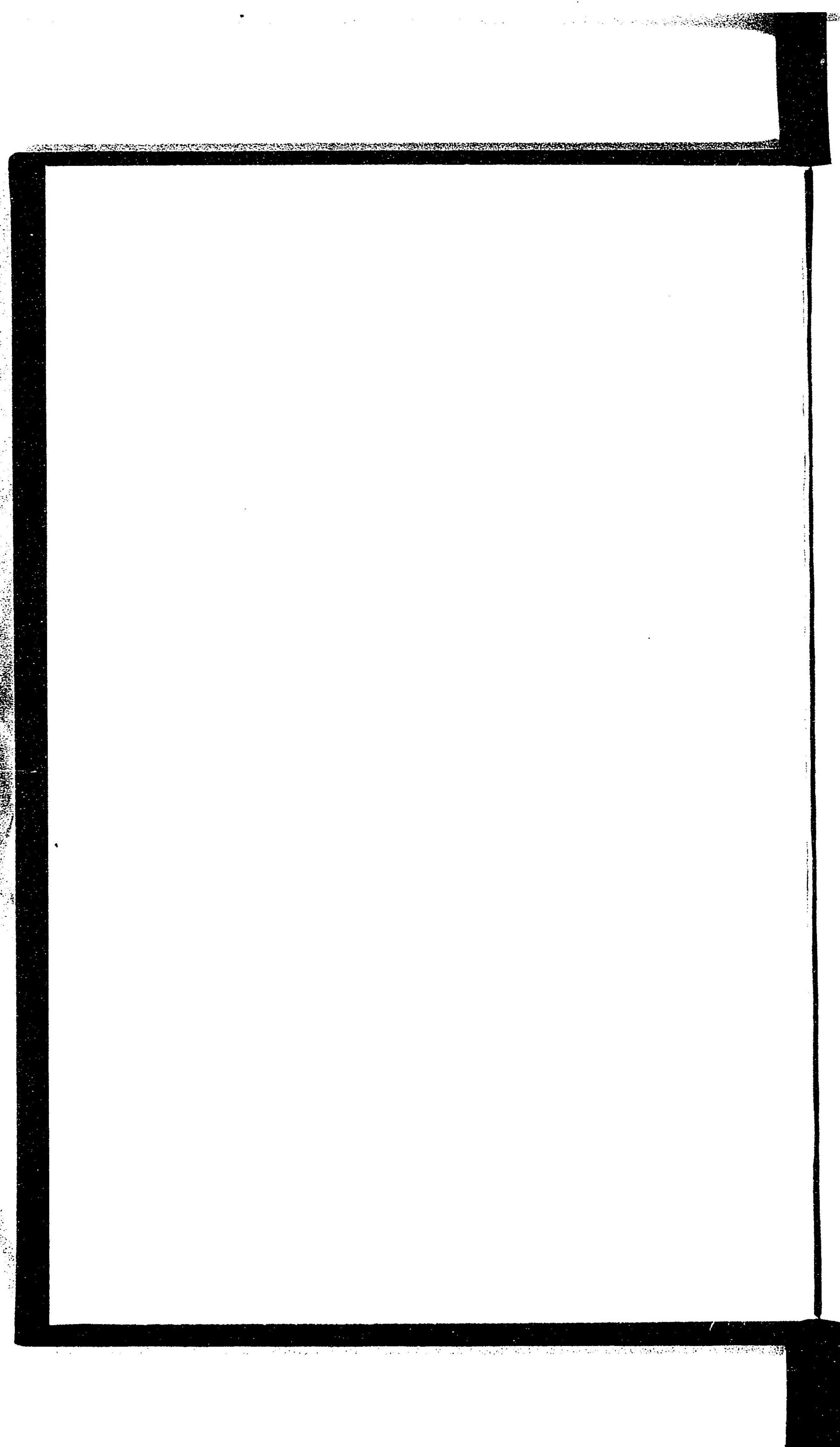
法華經

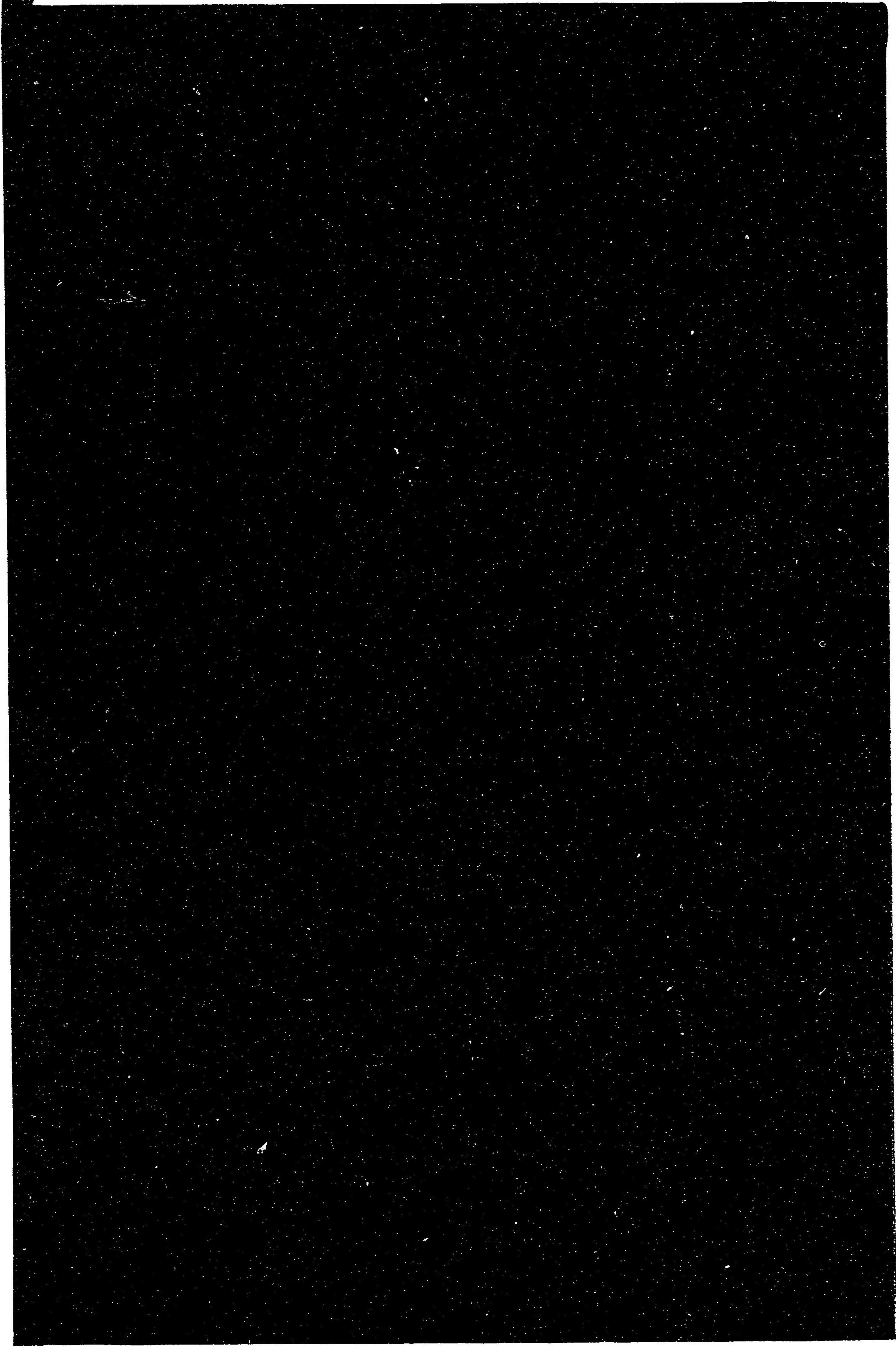
法華經

法華經

法華經







2935

1

